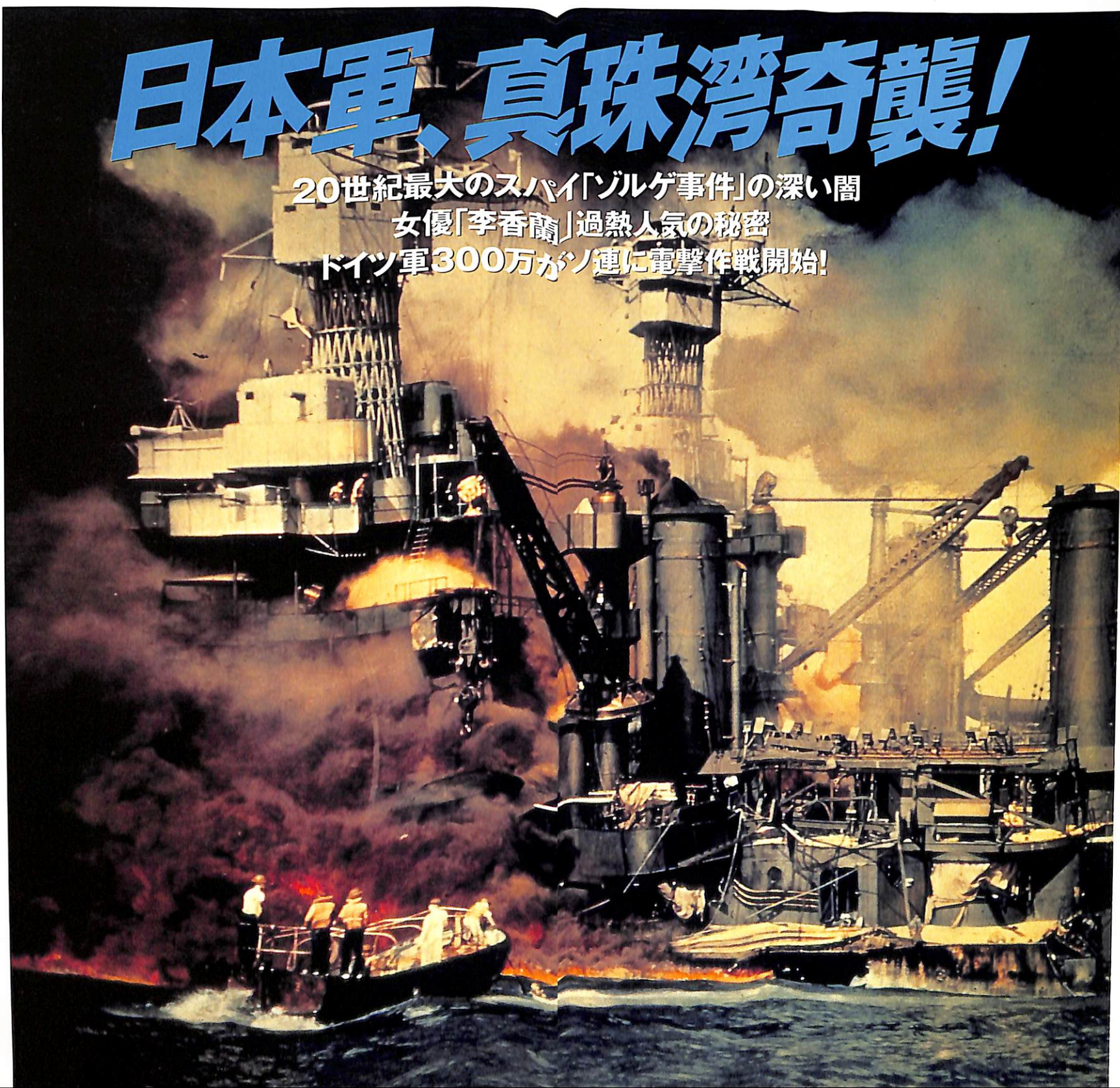
週刊 YEARBOOK

1941
昭和16年

日録20世紀

7/1
平成9年7月1日発行
(毎週1回発行)第1巻第19号
¥560
講談社

日本軍、真珠湾奇襲!

20世紀最大のスパイ「ゾルゲ事件」の深い闇
女優「李香蘭」過熱人気の秘密
ドイツ軍300万がソ連に電撃作戦開始!

12月8日、日本軍真珠湾を奇襲!
わずか31文字の大本営発表に国民は沸いた
「米英軍と戦闘状態に入れり」

現代史の転機となった年だった。6月、ナチス・ドイツの大軍が突如ソ連に侵入したのに続き、12月には日本軍が真珠湾を攻撃。それまで参戦しなかったアメリカを巻きこんで、第2次世界大戦が本格化する。大戦による死者は全世界で1683万人。負傷者は2670万人にものぼった。

▲第1次攻撃隊の急降下爆撃と魚雷攻撃を受け、火の手を上げる戦艦群とヒッカム飛行場(手前下)。飛行しているのは、97式艦上攻撃機。 文殊社提供

▼フォード島海軍基地の格納庫と飛行機が、火炎に包まれている。 ユニフォト・プレス

▲湾内の浅瀬に、黒煙を上げて沈む「ウェストバージニア」。 ユニフォト・プレス

臨時ニュースに熱狂し 緒戦の大勝利に酔う

その朝、東京の空には、よく研ぎ澄まされたナイフのように輝く三日月が浮き、市街は厳しい寒さに包まれていた。昭和一六年一二月八日、中国大陸で一〇年を超える戦争が続いていたとはいえ、きわめてのんびりとした月曜日だった。だが、午前四時、マスコミ関係者に異変の前触れが伝えられた。内閣情報局が「ただ今から気象管制に入る」と指示したのだ。それ以降、天候に関するいっさいの報道が禁止されたのである。次いで五時すぎ、陸軍省記者クラブに発表の予告があった。六時ちょうど、クラブに陸軍報道部長の大平秀雄大佐と海軍報道部員の田代格中佐が姿を現した。

「発表を行います」と切り出した大佐は、手にした原稿を読みあげた。発表本文は「帝国陸海軍は……」に始まるわずか三一文字。記者会見場に大歓声があがり、ただちに臨時ニュース、号外の準備に走り始めた。NHKラジオが、衝撃的なニュースを伝えたのは午前七時の定時ニュース枠だった。

「臨時ニュースを申しあげます。臨時ニュースを申しあげます」

館野守男アナ(二七)が、そう繰り返した後、勇壮な軍艦マーチが流れた。この日当直の同アナは、三年半後の敗戦の「玉音放送」にも立ち会うことになる。

「大本営陸海軍部午前六時発表。帝国陸海軍は本八日未明西太平洋において米英軍と戦闘状態に入れり」

大本営発表の第一号だった。少し遅れ

◎表紙　海軍航空隊350機の魚雷爆撃で、真珠湾に集結していた米太平洋艦隊の主力は壊滅。戦史上これほど完璧な奇襲はない。 ユニフォト・プレス

12月8日、日本軍真珠湾を奇襲！
わずか31文字の大本営発表に国民は沸いた
「米英軍と戦闘状態に入れり」

「リメンバー・パールハーバー」

◀学生から中年の会社員まで並ぶ志願兵募集事務所。 Culver Pictures／デジタルハウス

日本軍の真珠湾攻撃は、アメリカ国民の憤激を引き起こした。アメリカ外交は、伝統的に「孤立主義」を掲げ、第1次世界大戦でも、最終局面まで参戦しなかった。しかし「卑劣なジャップ」の奇襲を目のあたりにして、「孤立外交論」はたちまち「リメンバー・パールハーバー」「断固開戦」という圧倒的な声にかき消される。日米交渉決裂の通告は、ワシントンの日本大使館の大失態によって、真珠湾攻撃開始（ワシントン時間12月7日午後1時19分）から1時間近くも遅れた。しかもそれは、外交慣例で言うところの国交断絶でも、宣戦布告でもなかったことがアメリカ世論の憤激に油を注いだかっこうになった。翌日開かれた上下両院では、下院の1議員をのぞく全員が、大歓声のうちに「宣戦布告」を議決した。議会だけでなく、一般市民も戦意を大きくかきたてられ、多くの志願兵募集事務所には長蛇の列が作られた。

真珠湾攻撃を立案した連合艦隊司令長官・山本五十六の意図は、先制奇襲攻撃によってアメリカ太平洋艦隊を壊滅させ、アメリカ国民の戦意を喪失させるところに主眼がおかれていた。その思惑は大きくはずれてしまったのである。

▼12月8日、開戦の日、東京は真珠湾の戦勝を喜ぶ市民や学生であふれた。

毎日新聞社

て、各紙号外が刷り上がり、大ニュースを告げる鈴の音が町中に響き渡る。東京駅に着いた列車の乗客にも号外が配られた。そして日本人は一様に、緒戦の大勝利を熱狂的に受けとめていた。

詩人の高村光太郎（五八）は「戦艦二隻轟沈というような思いもかけぬ捷報が、少し息を弾ませたアナウンサーの声によって響きわたると、思わずなみいる人たちから拍手が起こる。私は不覚にも落涙した」（『日本の百年 3 果てしなき戦線』筑摩書房）と記している。

「ワレ奇襲ニ成功セリ」真珠湾の米艦隊を痛撃

それより数時間さかのぼるホノルル時間の七日午前六時（日本時間八日午前一時三〇分）、オアフ島の北四二五キロ地点に集結していた連合艦隊の「赤城」など六隻の空母艦上から、一八三機の大編隊が次々と発進。雷撃機、爆撃機、戦闘機などからなる真珠湾攻撃の第一波だった。隊長は淵田美津雄中佐（三九）。さらに一時間一五分後、第二波の一六七機が飛び立ち、真南の真珠湾をめざした。

午前七時四五分、第一波はアメリカ太平洋艦隊の本拠地、朝もやの立ちこめる真珠湾上空に到着する。眼下に「アリゾナ」（三万一〇〇〇トン）、「オクラホマ」（二万七五〇〇トン）など巨大戦艦が二隻ずつ、八隻が係留されていた。日曜日とあって、甲板では水兵らがのんびりと寝そべったり、朝食をとったりしていた。

四分後、攻撃態勢に移った各機は急降下する金属音を放つ。そこに「トトトト」というモールス信号が伝わる。「全機突撃セヨ」の暗号だった。

太平洋艦隊の主力艦は次々に轟音を上げ、煙と炎に包まれていく。魚雷が次々と戦艦に命中し、数十メートル上空まで、真っ白な水柱が上がる。米軍の対空砲火の閃光もよぎり始めた。そしてついに戦艦群の停泊地付近から、大きな衝撃音とともに、上空高く火柱が上がった。戦艦「アリゾナ」が大爆発を起こしたのだ。五二分、淵田中佐は「トラトラトラ（ワレ奇襲ニ成功セリ）」と誇らしげに打電している。

十二月九日付の「朝日新聞」は、「ハワイ、比島に赫々の大戦果」という大見出しを掲げ、大本営海軍部の発表を「米海軍に致命的大打撃」「戦艦六隻を轟沈大破す」「航母一、大巡四をも撃破」と報じた。この時点での大本営発表は、後に嘘と粉飾の代名詞とされたそれとは違い、まだ正確だったのである。そしてまた、太平洋戦争の緒戦は、真珠湾のみならず、フィリピン、ビルマなど南方戦線も含め、日本軍の大勝で幕を開けた。「英東洋艦隊全滅す」（「朝日新聞」十二月九日）「香港の英軍降伏す」（「朝日新聞」十二月二十六日）と「大戦果」は続いた。

だが、少数ながら先行きを深く憂える人がいた。その一人が真珠湾奇襲を起案した海軍大将・山本五十六（五七）自身だった。山本は「こうなった以上、最善を尽くして奮闘する。そして長門艦上で討死するだろう。そのあいだに東京は三度くらい丸焼けにされて、非常にみじめな目に合うだろう」（原田熊雄『西園寺公と政局』）と――。もう一人は開戦を前に予備役に編入された陸軍中将・石原莞爾（五二）である。「（この戦争は）負けますな。第一、鉄砲だまがありませんからな」（藤本治毅『人間石原莞爾』）

だが、将来を冷徹に見据えられた人はあまりにも少なかった。日本軍の攻勢は半年ほどしか続かず、日本軍の運命は破局に向かって暗転していくのである。

▲淵田美津雄中佐を総隊長とする第1次攻撃隊183機が6隻の空母艦上から次々に発進、南の真珠湾をめざす。「皇国の興廃この一戦にあり」とZ旗がひるがえる。空母「赤城」にて撮影。 毎日新聞社

御前会議の決定まで入手した
二〇世紀最大の国際スパイ団検挙！
「ゾルゲ事件」の深い闇

太平洋戦争前夜、諜報合戦が繰り広げられていた東京で、社会主義の祖国・ソ連を守るための反戦工作に身を投じたグループが検挙された。政府の要人までも逮捕された「ゾルゲ事件」は、対独戦渦中のソ連への配慮、対米強硬派で固めた東条英機首相らの思惑がからみあい、その真相は今も謎に包まれたままだ。

▲「ソビエト、赤軍、共産党」と2回日本語で繰り返したのがゾルゲの最期の言葉だった。　共同通信社

映画顔まけの情報収集力 国家最高機密までも入手

「皇国少年だった自分も、もやがかかった不思議な事件だと思ったものです。終戦を迎えて少しずつ真実が明らかになってくると、知らぬ間に歴史が歪められていく恐さ、個人の運命を翻弄する国家権力への戦慄をおぼえました。今、自分がゾルゲの映画を作ろうとするのも、ゾルゲ事件が、昭和という混乱した時代を象徴するドラマそのものだからでしょう」

映画監督の篠田正浩氏は、事件を初めて知った時に感じた不可解さを、今も鮮明に記憶している。

昭和一六年一〇月一八日午前六時三〇分、麻布・鳥居坂の一軒家を、コートの襟を立てた数十人の特高が取り囲んでいた。「先日の交通事故のことでちょっと……」なじみの巡査の声を聞いて玄関から顔を出したリヒアルト・ゾルゲ(四六)は、背後で待ち構えていた刑事に両腕をおさえられた。容疑は治安維持法、国防保安法、軍機保護法の違反だった。

昭和八年に来日したゾルゲの〝表の顔〟は「フランクフルター・ツァイトゥング」紙の特派員であり、ドイツ大使の私設顧問――その一方で、赤軍第四本部所属のスパイという〝裏の顔〟を持ちあわせ、社会主義の祖国・ソ連を守るために諜報活動を展開していたのである。一ヵ月に約一〇〇〇ドルの資金を有し、シガレットケースに仕こんだカメラや暗号を駆使して映画顔まけの諜報活動を繰り広げ、最高機密をいとも簡単に集めたゾルゲ・グループの情報収集力を青山学院大学の寺谷弘壬教授は次のように解説する。

「ソ連の情報は、世界中に常駐し、姿を変えて現れる連絡員から入手。英米仏の情報は各国大使館員と交遊があったアバス通信社記者のブランコ・ド・ブーケリッチ(三七)が収集し、ドイツ情報はオット大使の顧問として機密電報や報告文を入手できるゾルゲが担当。日本の機密情報は、近衛文麿内閣のブレーンで著名な中国評論家の尾崎秀実(四一)が、〝昭和の元老〟西園寺公望の孫で近衛の側近・公一(三四)や、犬養毅の息子・健(四五)らを通じて集めた。なんと、御前会議の決定まで筒抜けだったのです」

どのようにしてこのことを探知したのかは不明だが、特高がいよいよゾルゲ逮捕に踏み切ったのが一〇月一八日の朝だったのである。

ゾルゲ逮捕に先立つ一五日早朝には、尾崎秀実が同じく治安維持法違反などの疑いで自宅近くの目黒署へ連行され、前後数ヵ月の間にブーケリッチや無電技師のマックス・クラウゼン(四二)、画家の宮城与徳(三八)らグループ三五人が逮捕された。その中に西園寺公一や犬養健ら大物も含まれていたことから、この事件は後々、「二〇世紀最大の国際スパイ事件」と騒がれることになる。

異例のスピード裁判で葬り去られた数々の謎

ゾルゲ・グループがモスクワ中央にもたらした情報は、先見性に富み、実際に「日独防共協定」や「独ソ不可侵条約」といった極秘ネタが数多く打電されていた。特に、昭和一六年六月二二日のドイツのソ連攻撃では開始日を一日違いで予測、〝南進か、北進か〟の論争で入り乱れた七月二日の御前会議の決定もスッパ抜く。さらに尾崎は、日本のソ連侵攻を阻止すべく、南進に政策を切り替えさせる工作にも奔走していた。情報収集にとどまらず、命を賭けて内閣の路線転換をもくろむ彼らに、政府要人がみずから情報を提供することすらあったのである。

グループの逮捕劇は、発表が大幅に遅らされ、厳しい報道管制のもと、ゾルゲら外国人三人は、最初から監視の厳重な東京拘置所に勾留されるという異例の措置がとられた。〝異例ずくめ〟のクライマックスが、あまりにも短く、それも密室で進められた裁判だ。逮捕から二年もたたない一八年九月二九日にはゾルゲと尾崎に死刑が言い渡されるスピード進行だったのである。こうした当局の奇妙な動きを、尾崎の弟でもある文芸評論家の

▲宮城与徳は、アメリカ共産党員だった。

▲ゾルゲ同様、赤軍第4本部所属のクラウゼン。

▲ブーケリッチは、フランス共産党が派遣。

尾崎秀樹氏提供(二点とも)

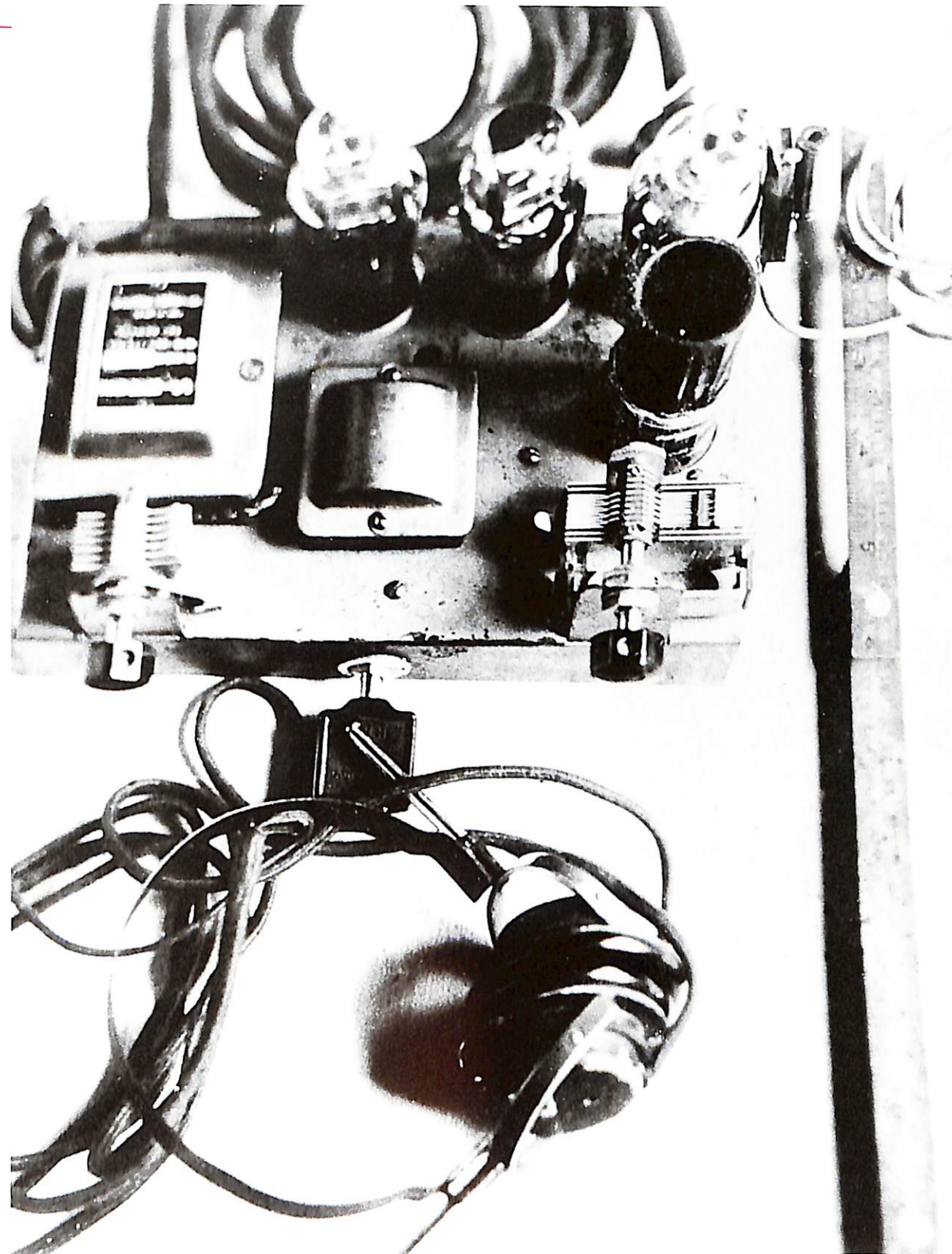
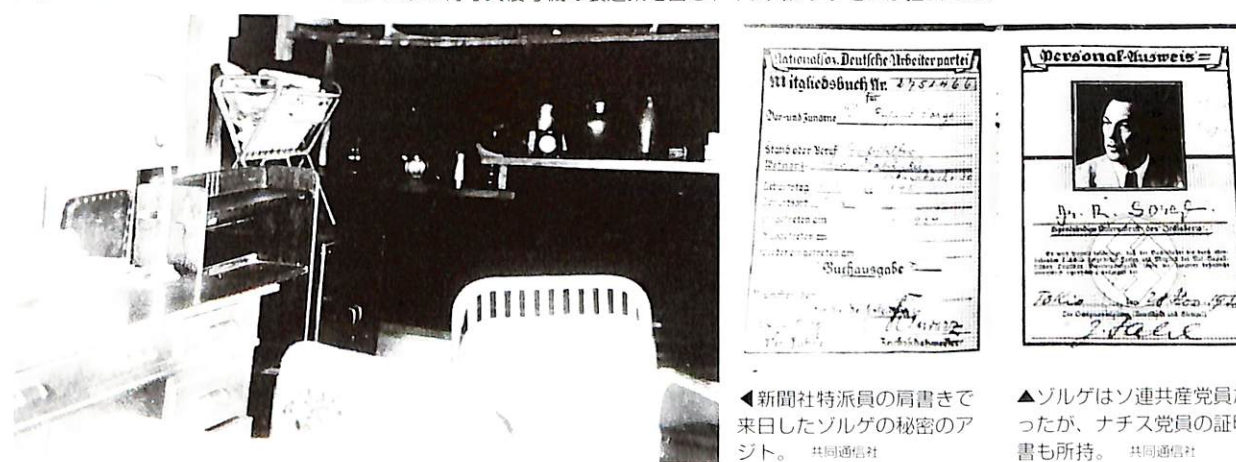
▲昭和5年秋、尾崎秀実は朝日新聞記者として赴任した上海でゾルゲと知りあい、思想的に共鳴しあう。娘楊子とともに。　勁草書房提供

尾崎秀樹氏は、次のように推測する。

「二人の逮捕は近衛内閣の退陣とほぼ同時に行われているのですが、これは新首相の東条英機らが戦時体制強化のために事件を利用したからでしょう。対立していた近衛のブレーンが逮捕されたわけですから。さらに、国外追放や終身刑が妥当なゾルゲと尾崎を死刑にしたのは、すでに始まっていた和平工作に応じないソ連などへの報復という見方もできます。当時すでに日本の敗色は濃く、政府はゾルゲと日本人将校との身柄交換を申し入れ、ソ連に一蹴されていたのです」

一九年一一月七日、奇しくもロシア革命記念日に、東京・巣鴨の拘置所で二人はひそかに絞首刑に処せられた――。

ところが、このゾルゲ事件は、戦後も、〝社会主義の美談〟とたたえられたり、米国による〝反共キャンペーンの宣伝材料〟として利用され続けた。事件発覚のきっかけから政権中枢にいた情報提供者の存在、裁判の全容といまだ解明されないことが多く、それゆえ「ゾルゲ二重スパイ説」や元日本共産党員の「伊藤律のスパイ説」、はたまた「野坂参三の関与説」とさまざまな憶測を呼んできた。

ゾルゲと尾崎の処刑から五〇年たった今も、事件は完結していないのである。

▲諜報活動に使用された無電、無線機。東京で青写真複写機の製造業を営むドイツ人クラウゼンが担当した。共同通信社

◀新聞社特派員の肩書きで来日したゾルゲの秘密のアジト。共同通信社

▲ゾルゲはソ連共産党員だったが、ナチス党員の証明書も所持。共同通信社

女たちの肖像

超大作「馬」が大ヒット 天才子役〝デコ〟から高峰秀子、女優に脱皮

稲葉真弓

この年の三月、山本嘉次郎監督の超大作映画「馬」が封切られ、大ヒットを飛ばした。主役は一七歳だった高峰秀子。内容は高峰扮する農村の娘「いね」と、子馬の頃からかわいがって育てた「太郎」という馬との心の交流を描いた田園映画であった。東北の四季を背景にしているため撮影は三年にわたり、東宝が莫大な製作費をつぎこんだことでも話題になった。高峰秀子はそれまで名子役としておびただしい映画に出演してきたが、この作品で子役から脱皮、女優・高峰秀子の少女時代の代表作となった。またこの作品は文部大臣賞を受賞、サトウハチロー作詞の主題歌「めんこい仔馬」も大流行した。

東宝提供

▲「太郎」との心の交流が描かれた。

彼女の映画デビューは昭和四年、わずか五歳の時である。養父と一緒に散歩に出かけ、「松竹蒲田撮影所」で鶴見祐輔原作の「母」という映画のオーディションに行きあわせたが、ぼーっと見ているうちに主役に抜擢されてしまった。「母」は評判を呼び、劇場は超満員。高峰秀子は本人の意志とは関係なく天才子役としてもてはやされるようになった。

東宝入社後、「デコちゃん」の愛称で親しまれ、出演した映画は三百本余。子役時代から、大河内伝次郎、長谷川一夫、東海林太郎、田中絹代など大スターと共演、あまりのかわいらしさに東海林太郎夫妻が養女にと懇願、毎晩彼女の家に通ったうえ、同居させたというエピソードが残っている。

が、彼女は後に「女優という仕事は好きではなかった」と告白。四歳の時、実母が病死、叔母の志げに引き取られたがこの一家が大家族。天才子役になった彼女は、一家を養う大黒柱になることを余儀なくされた。そうした養母との確執は自伝『わたしの渡世日記』（日本エッセイストクラブ賞受賞）に詳しいが、学校に通うこともままならず身を粉にして働いた。昭和三〇年、映画監督・脚本家の松山善三と結婚、この結婚で彼女はようやく心のうるおいと平安を得ることができたという。

以来、高峰と松山善三は芸能界きってのおしどり夫婦として有名だが、昭和五四年、女優生活五〇年を期にきっぱり引退した。以後はエッセイ、テレビドラマの脚本などで活躍、著書も二〇冊を超え、名文家としても知られている。

勝者・敗者

〝拳聖〟伝説の誕生！ 天才・ピストン堀口「槍の笹崎」にKO勝ち

阿部珠樹

格闘技の世界に〝世紀の一戦〟は少なくない。しかし、戦前の日本で〝世紀の一戦〟と言えば、この試合をおいてほかにない。この年五月二八日、国技館で行われたピストン堀口（二六）対笹崎僙（二六）の試合である。

堀口は昭和八年にプロデビュー、その年に前世界王者のエミール・プラドネルと引き分けるという快挙をはたし、一躍日本ボクシング界のスターにのし上がった天才ボクサーである。翌九年には日本フェザー級チャンピオン、その二年後東洋チャンピオンとなり、日本の頂点に君臨してきた。戦法はひたすら左右のフックを振るう豪快なもの。「ピストン」のリングネームもそのエネルギッシュな戦いぶりからつけられた。

藤本四八／JPS

▲デビュー以来5分けをはさみ40連勝。通算138勝（82KO）24敗14分け。

対する笹崎は、「槍の笹崎」の異名どおり、左右のストレートを武器に前進する戦法で、昭和一〇年から二六連勝中の強豪。かつて同じジムに所属した同士の〝遺恨試合〟ということもあり、試合は否が応にも盛り上がった。

当日、入場券は完売、国技館は相撲の千秋楽をしのぐ熱気に包まれた。

先に仕掛けたのは笹崎だった。一ラウンドのゴングが鳴る前に、早くも堀口に挑みかかっていく。レフェリーがあわてて間に入るが、堀口は、はやる笹崎を冷静に観察していた。その対照的な精神状態が、試合にはっきり現れた。

一ラウンド、堀口は得意のフックを笹崎のあごにヒットさせ、ダウンを奪う。三ラウンドには笹崎の右目が出血する。もともと左目の視力が極端に弱かった笹崎は、これで距離感がまったくつかめなくなってしまった。後は堀口の独擅場である。五ラウンド、猛烈なラッシュで、三度のダウンを奪うと、六ラウンド開始早々、笹崎のセコンドからはタオルが投入された。最強の挑戦者を苦もなく片づけた堀口は、昭和二五年鉄道事故で亡くなるまでリングに上り続けた。その戦いぶりは、〝拳聖〟と呼ばれるにふさわしいものだった。

1月

朝日新聞社

朝日新聞社

▶**女学生が銃を使って軍事教練(1月)** 東京・麹町の東京家政学院が現役の将校を教官に前年10月末から週2時間実施。20歳前後の女性たちに、銃の扱い方を教え、軍事思想の普及、体位向上、集団訓練を試みた。

◀**近衛首相、連合稽古を見物(1月5日)** 挙国一致、新体制下の春場所を前に力士が東京・両国の二所ノ関部屋で激しい申し合い。満員の観客の中に前年、新体制運動を掲げた首相の姿があった。力士は双葉山(右)と前田山。

▼**スキー客ですし詰め(1月3日)** 鉄道省や私鉄各社が自粛を呼びかけたが効果なし。正月旅行をめざす人がどっと温泉地やスキー場に向かった。写真は名古屋駅で信越方面行き列車を待つ乗客。

中日新聞社

影山光洋

▶**銀座で見つけた「翼賛型」美人(1月)** 「アサヒグラフ」が新体制に対応する「新女性健康美の制定が急務」と2月5日号に掲載。1月銀座を訪れた女性から、翼賛会国民生活指導部の竹村とく子、画家・中村研一、舞踊家・石井漠が選んだ。

◀▼**戦場の軍人に「戦陣訓」示達(1月8日)** 戦争の拡大とともに目立ってきた軍紀の乱れをただし、道義高揚をはかるために作成。「生きて虜囚の辱を受けず」などは、後に玉砕の思想を生んだ。写真上は「其の一　皇国」、13日には東条陸相がレコードに吹きこんだ(下)。

朝日新聞社

▼**宝塚、国策レビュー(1月1日)** 9月には音楽奉仕隊を結成するなど、戦時色を色濃く反映した。舞台も健康美をうたう高木史朗作「美と力の賛歌」(写真)のように時局に合わせた内容となった。

宝塚歌劇団提供

昭和16年1月

1(水) ●日本放送協会、海外放送を一六言語に拡充。
●全国映画館で国策ニュースの強制上映を実施。

2(木) ●芳澤特派大使、蘭印(オランダ領インドシナ)総督と石油など重要資源確保の交渉開始。

3(金) ●海軍航空部隊、中国の昆明と滇緬公路を爆撃。

4(土) ●長谷川時雨・円地文子らの「輝ク部隊」、海軍文芸慰問団に合流し、華南・仏印へ出発。

5(日) ●エロール・フリン主演「シー・ホーク」封切。

6(月) ●相撲協会、序二段以下の軍事教練実施を決定。

7(火) ●情報局、外国記者と以後日本語で会見と通告。

8(水) ●東条英機陸相、「戦陣訓」を全軍に示達。

9(木) ●南洋島内の定期航空第一便がパラオ空港出発。

10(金) ●文部省、女学生の制服統一を決定。セーラー服を廃止、冬服は紺一色(4月実施)。

11(土) ●新聞紙等掲載制限令公布、施行。新聞などへの国家機密の掲載制限を大幅に強化。

12(日) ●講道館で五七年ぶり汁粉なしの鏡開きを開催。

13(月) ●東京外国語学校、三〇年ぶり泰語部募集告示。

14(火) ●警視庁、切符制となった出産・家庭用脱脂綿の配給を二月初旬実施と決定。

15(水) ●陸・海軍など七省合同で対謀略防衛の演習を阪神地区を中心に大規模に実施(~17日)。

16(木) ●四青少年団体を統合し大日本青少年団、結成。

17(金) ●代用食か菓子かで論争のホットケーキを商工省が菓子と判定し、公定価格を適用。

18(土) ●文部省、獣医不足解消で初の官立・帯広高等獣医学校の設置決定(3月29日開校)。

19(日) ●映画「馬」の主題歌、「めんこい仔馬」発売。

20(月) ●翼賛会が新女性美制定研究会。多産型を推奨。

21(火) ●東宝移動文化隊、長野県で第一回公演。

22(水) ●閣議、人口政策確立要綱を決定。「一家庭に五人の子」を、と早婚・出産を奨励。
●新響公演でマーラー「大地の歌」を初演。

23(木) ●横浜の英代理総領事、英人に引揚げを勧告。

24(金) ●大相撲千秋楽で横綱双葉山と大関羽黒山がともに一四勝一敗。番付上位の双葉山が優勝。

25(土) ●東京などの商店の閉店が夜九時に繰り上げ。

26(日) ●帝大生ら三〇〇人が江戸川堤の湿地帯を開墾。

27(月) ●鉄道省、沿線にトウモロコシの作づけを通牒。

28(火) ●官民合同の日本合成繊維研究協会、設立。

29(水) ●郵便局、一・二等は普通、三等は特定と改称。

30(木) ●大阪府保安課、カフェーやキャバレーでのステージダンス公演を月一〇日以内にと通達。

31(金) ●タイと仏印、軍艦「名取」艦上で停戦協定調印。

ニュース・ファイル 1941

フォト＋日録で再現する365日

この年七月、大本営はひそかに「対米英戦も辞さず」の方針を打ち出し、石油などの資源を求めて南部仏印(仏領インドシナ)へ進駐。日本は太平洋戦争開戦へ突き進んだ。一方、米をはじめ生活物資の統制・配給が始まり、庶民の生活は日々戦時色を強めていった。

◀**「節米」「代用食」実施の食堂(2月)** 前年から東京の百貨店や社員食堂では米食廃止、大衆食堂も時間制限に。写真は学生の姿が目立つ銀座の店。米食は昼食と夕食時のみで、ランチはコロッケなど3種、80銭だった。

松田正志／JPS

▲女学生の1日入営（2月21日）「戦陣訓」を体験しようと、静岡県沼津女子商業の生徒が、陸軍駐屯地を訪れ、教練・射撃などの実地訓練を受けた。写真はガスマスクのかぶり方を教わる生徒。

朝日新聞社

「国際写真情報」／国際フォト

▼ドイツのロンメル将軍、北アフリカ上陸（2月12日）イタリア軍救援のため、独の総司令官として着任。3月からの機甲部隊の攻勢で英軍を後退させ、「砂漠の狐」と恐れられた。

▲舞姫・崔承喜ジャンプ（2月）京城（ソウル）生まれで朝鮮の民族舞踊をもとにした創作ダンスで人気の崔（28）がパリから帰国。22日からの歌舞伎座公演のため練習を始めた。

朝日新聞社

▲夜のラジオ体操（2月5日）閉店を1時間繰り上げた時間を「健康報国」に使おうと東京・麹町の町会がこの日から実施。9時から20分間、約100人が参加。

▶蒙古連合自治政府主席の徳王来日（2月14日）14年に日本軍の支援で成立した政権で、来日は日蒙の友好増進が目的。写真は宮中参内後の徳王（左）。

「国際写真情報」／国際フォト

PPS

昭和16年2月

1（土）●全国の職業紹介所が国民職業指導所と改称し、中小商工業者の転業指導を実施。

2（日）●衆院、六八億六三二六万円（軍関係二六億二八七二万円）の一六年度予算を満場一致で可決。

3（月）●大本営、外相・松岡洋右提案の日ソ関係を重視した対独伊ソ交渉案要綱を決定。

4（火）●産業報国会の演芸慰問団、各地の炭鉱に出発。

5（水）●大角岑生海軍大将、戦線視察機が墜落し死亡。

6（木）●独アフリカ軍団総司令官にロンメル将軍就任。

7（金）●閣議、大政翼賛会は国民の自発性喚起をうながす政治結社ではなく行政の補助機関と規定。

8（土）●河辺忠夫、グライダー飛行、滞空時間一三時間四一分の日本記録を樹立。

9（日）●中国戦線から復員の佐野周二、二年八ヵ月ぶりにカムバックし、浅草国際劇場に出演。

10（月）●東京の転業者一六〇人、家族八二人とともに満州（中国東北部）開拓へ出発。

11（火）●李香蘭、日劇に初出演。観客殺到し警官出動。

12（水）●東京の山岳団体・巡礼倶楽部三〇人、初の冬季富士山集団登山に成功し、この日帰京。

13（木）●芳澤特派大使、蘭印交渉解決は実力でと報告。

14（金）●蒙古連合自治政府主席・徳王が来日。

15（土）●大学志願締め切り。徴兵猶予可能な工科急増。

16（日）●日本放送協会、奥日光の国民皆スキー行進で初の搬送式電話による中継に成功。

17（月）●一四日開設の警視庁生活相談所の電話相談をこの日受付。住宅問題が多数を占める。

18（火）●日本演劇協会（委員長・久保田万太郎）発会。

19（水）●警視庁、盛り場の横文字改称の実態をまとめる。マネキンを「招金」など。

20（木）●兵庫県の酒造業者、贅沢酒として製造中止になる「灘の生一本」存続を商工省などに陳情。

21（金）●タバコ小売店で貯蓄債券と報国債券を販売。

22（土）●パリ帰りの舞踊家・崔承喜、歌舞伎座で公演。

23（日）●独外相、大島浩独大使に日本のシンガポール奇襲、対英攻撃を要請。

24（月）●衆院から市町村会まで議員の任期を一年延長。

25（火）●厚生省調査で一四年七月から一年間の工場・鉱山での死傷者は六〇万人、と新聞に。

26（水）●情報局、総合雑誌出版社に執筆禁止者名簿を内示（矢内原忠雄・清沢洌・田中耕太郎ら）。

27（木）●東京市、学生の深刻な下宿不足に対し、一般家庭に部屋の提供の呼びかけを決める。

28（金）●英海軍、シンガポール海峡の機雷封鎖を発表。

門奈次郎／JPS

▼新京へ直行1番機出発（3月17日）三菱式MC20型11人乗り旅客機「白根号」が、羽田から米子を経由、5時間30分で新京（長春）に到着した。翌月からは大日本航空と満州航空が無着陸で週2往復運航した。

共同通信社

▲松岡外相、ドイツ訪問（3月27日）日・独・ソ・伊4国同盟を構想しつつ、ベルリンでヒトラーと会談。しかしドイツはすでに対ソ戦を決めていた。写真は独国防軍の歓迎を受ける松岡（右から二人目）。

朝日新聞社

◀「靖国の遺児」、父の霊に参拝（3月29日）軍人援護会など主催で「遺児の日」が行われ、昭和6年からの日中戦争で父を亡くした約4000人の子らが全国から靖国神社に集まった。写真は熊本県代表の児童たち。

朝日新聞社

▲岸記念体育会館落成（3月22日）体育協会会長・IOC委員を歴任、日本の体育界に貢献した岸清一が残した100万円を基金に東京・神田に竣工。地上2階、総建坪470坪。設計は丹下健三。

▲皇太子殿下、「三笠」見学（3月28日）前年の15年に学習院初等科に入学した皇太子は、春休みを利用して海軍の横須賀鎮守府を訪れた。海軍工廠と記念館となっている日本海海戦の旗艦「三笠」を巡覧した。

▼「子守」の少女が通う小学校（3月26日）「生めよ殖やせよ」運動にそい埼玉県加須町が校内に託児所を設け、子守をしながら小学校の勉強ができるようにした。14〜16歳の農家の少女が多かった。

朝日新聞社

昭和16年3月

1（土）●国民学校令公布（4月1日施行）。尋常小学校を国民学校に改称。義務教育を八年に延長。
●小津安二郎監督「戸田家の兄妹」封切。

2（日）●満州国政府派遣の留学生一六五人が入京。

3（月）●国家総動員法改正公布。統制・罰則を強化。

4（火）●警視庁、低俗理由に喜劇役者・高屋朗、漫才・東ヤジローら三人を出演禁止処分。

5（水）●食糧報国連盟、国民儀礼食の試食会を開催。

6（木）●出産奨励で結婚式急増、衣装は質素と新聞に。

7（金）●国防保安法公布。国家機密漏洩者に最高死刑。
●中野正剛、政治結社・東方会を設立。

8（土）●誠文堂新光社が用紙入手難のため「子供の科学」など八誌の新規購読お断りの広告。

9（日）●帝国軍用犬協会、軍用犬競走大会を開催。

10（月）●治安維持法改正公布。予防拘禁制を導入。

11（火）●米で武器貸与法が成立。実質的参戦へ。
●高峰秀子主演、山本嘉次郎監督「馬」封切。

12（水）●内務省、河川敷を利用し麦・芋の増産を指示。

13（木）●東京府、三食外食に記名式外食券交付と決定。

14（金）●宮城道雄ら出演し現代日本音楽演奏会を開催。

15（土）●大審院、クーデターを計画した神兵隊事件（8年）で天野辰夫ら四四被告に刑免除の判決。

16（日）●傷痍軍人一八人が剃刀再生工場を建設。

17（月）●日満定期航路開設。新京向け第一便羽田発。

18（火）●北海道の美唄炭鉱でガス爆発。一七〇人死亡。

19（水）●時間外電報廃止、慶弔電報の取り扱い中止に。

20（木）●独空軍、春季大攻勢かけロンドンを空爆。

21（金）●東京府、小学校教員一〇七二人不足で他府県からこの日までに五〇〇人を補充。

22（土）●運動具の公定価格公示。野球ボール三円など。

23（日）●戦前最後の全国選抜中等学校野球大会開幕。

24（月）●松岡外相、モスクワでスターリンと会談。

25（火）●ユーゴ、日独伊三国同盟に加盟（27日反独軍部クーデターが成功し中立路線に転換）。

26（水）●日本放送協会、歌舞伎座からの舞台中継でフィルム式録音機を国内放送に初使用。

27（木）●松岡外相、ベルリンでヒトラーと会談。日独伊ソ四国同盟案を提唱。

28（金）●東京魚商組合、警察署単位で配給組織化決定。

29（土）●初の官立体育専門学校である東京高等体育学校（現・筑波大学）を設立。

30（日）●天台宗の山門・寺門・真盛三派が合同。

31（月）●朝鮮総督府、国民学校規程を公布。小学校を国民学校と改称し、朝鮮語の学習を廃止。

▲ハイキングばやり（4月）4月に、神戸市が六甲山で強歩大会を開くなど、官製歩け歩け運動がさかんで、大阪の私鉄のハイキング場向け切符売り場は大混雑。

毎日新聞社

▼衛生監視隊出動（4月）春になり、警視庁保安衛生部が繁忙期に入った。都内各所の飲食店をまわり衛生検査を実施。写真は喫茶店内を子細に調べる係員。

朝日新聞社

▲日ソ中立条約調印（4月13日）相互不可侵などを盛りこみ、有効期限を5年とした。松岡外相には北方を安定させ、南進させる意図があった。写真はモスクワで署名する松岡とスターリン書記長（後列右）。

▶国民学校スタート（4月1日）8年間の義務制で、「皇国民の錬成」をおもな目的として誕生。写真は香川県の浅野国民学校初等科1年生が神社で撮影した記念写真。

四国新聞社

◀代用品キャンペーン（5月）東京・日本橋の高島屋が代用品を展示した。昭和13年開始の代用品開発で、繊維製品はスフ、金属類は陶磁器とさまざまな代用品が作られたが、この頃はまだ関心が低かった。

門奈次郎／JPS

昭和16年4月

1（火）●六大都市で米穀配給通帳制・外食券制を実施。
●国民学校が発足。全国で入学式。
●放送協会、「子供の時間」を「少国民の時間」に。
2（水）●政府、大政翼賛会の改組案を公表。改組案に反対の有馬頼寧事務総長らは辞任。
3（木）●リビアの英軍、ドイツ・ロンメル将軍の機甲部隊に攻撃されベンガジを放棄。
4（金）●日本国内の米フォード社三四工場が一斉閉鎖。
5（土）●賀川豊彦らキリスト教界の代表者七人、遣米平和使節団として米国に向け出発。
6（日）●琵琶湖で四高ボート部員ら一一人が遭難死。
7（月）●代用食肉として犬・カエルなどの販売申請が続く警視庁に、アザラシの肉が申請される。
8（火）●農林省農政課長・和田博雄、治安維持法違反で検挙（企画院事件。勝間田清一らも検挙）。
9（水）●海軍軍令部総長に永野修身が就任。
10（木）●前年の大卒就職率は七五㌫で好調と新聞に。
11（金）●東京の娯楽街のタクシー駐車場九三ヵ所廃止。
12（土）●大審院、砂糖代用にズルチンを製造・販売したアトム理化学工業に有罪判決。
13（日）●日ソ中立条約、モスクワで調印。
14（月）●東京府、食肉業者に月四回の休日、飲食店に月二回の「肉なし日」を設けるよう通牒。
15（火）●文部省、「昭和の礼法」を通牒。食事法も規定。
16（水）●信濃川発電所の二期工事落成。日本最大に。
17（木）●日活の内田吐夢ら、功利主義に抗議し退社。
18（金）●前年実施の国勢調査の結果。朝鮮・台湾・樺太など含む総人口一億五二二万六一〇一人。
19（土）●華南方面軍、福州作戦開始（21日福州占領）。
20（日）●東大の検見川グラウンド七万坪を農地に転用。
21（月）●東京で初の結核検診用レントゲン車試験運用。
22（火）●満州国政府と朝鮮総督府、「満鮮一体化」宣言。
23（水）●保険院、中流向け住宅資金貸し出しを決定。
24（木）●草間（安川）加寿子、第一回ピアノ独奏会。
25（金）●警視庁、サーカスなど猛獣を扱う興行に監視人を置くなど一〇ヵ条の許可条件を決める。
26（土）●鉄鋼増産をめざす鉄鋼統制会設立。
●資源回収で家庭ゴミの三分別制実施と厚生省。
27（日）●東京府、防諜週間を前に行商人の証明書携帯義務づけなど実施事項を通牒（5月12日実施）。
28（月）●リンドバーグ、米参戦に反対し軍籍を離脱。
29（火）●三島市・西条市・佐伯市が市制施行。
30（水）●地方銀行の整理統合進み、一月から二七行減少してこの日現在二五九行に。

証言・あの日この日
中野重治（39）

9月23日（火）〈彼岸中日也。朝よりくもり。卯女早くから起きてさわぐ。卯女をつれて松陰神社に行く。卯女手をうって礼拝す。吉田寅次郎の墓を拝み感動す。ぼた餅をつくる。午後ぼた餅のお客。また一同にて松陰神社に行く。ぼた餅うまし〉（中野重治『敗戦前日記』）

彼岸の中日、世田谷の豪徳寺に住んでいた中野重治は幼い娘を連れて吉田松陰がまつられている松陰神社を訪れ礼拝する。ただの国粋主義者だったなら納得がいく。しかし周知のように中野は、転向した（ふりをした）とはいえ共産主義を信じるものだ。たまたま近所に住んでいたからだろうか。いや違う。この年の2月の日記の余白に、この月読んだ本として『吉田松陰全集』があげられている。戦争が近づきつつあった秋、吉田松陰の墓を拝みながら、彼は何を思ったのだろうか。（坪内祐三）

朝日新聞社

▲灰の回収（5月7日）畑の肥料不足を補うため、各家庭に働きかけた。隣組・町内会単位で集めた木灰は組合を通じて農家に送付。写真は京都市内での様子。

▼ユダヤ人、神戸出港（5月29日）ナチス・ドイツの占領するポーランドから日本に逃れ、神戸に滞在していた53人が大阪商船「まにら丸」でケープタウンへ。パレスチナをめざした。

毎日新聞社

▼テレビ実験放送開始（5月1日）前年開催予定の東京五輪を目標に開発していた放送技術研究所が、簡単なドラマなどを週1回実施した。6月末、戦局悪化のため中止され、軍事研究に動員された。

▲泥沼の日中戦争（5月17日）中国共産軍の掃討作戦を展開する華北方面軍は、山西省北部の抗日拠点・普察冀辺区に進撃。写真は途中、太行山で休息する兵士たち。戦闘は10月末まで続いた。

▼防諜週間始まる（5月12日）10日の国防保安法施行を期して実施。映画・ポスター・新聞などで積極的に宣伝、隣組まで動員して「無自覚のスパイに注意」などと、デマや噂による国民の戦争への批判を封じた。

共同通信社　毎日新聞社　毎日新聞社

昭和16年5月

1（木）●放送技術研、週一回のテレビ実験放送を開始。
●M・デートリッヒ主演「砂塵」封切。
2（金）●拓務省、全国七ヵ所に女子開拓訓練所を設置。
3（土）●横浜市で円タクに代わる自転人力車が開業。
●カトリック各派合同し日本天主公教創立。
4（日）●日本在住朝鮮人拠出の海軍機五機の献納式。
5（月）●大日本航空少年隊、結成。
6（火）●厚生省、造船業の一二時間労働延長を不許可。
7（水）●華北方面軍、山西省南部で中原会戦を開始。
8（木）●医師会、全国の無医村は千五百余と発表。
9（金）●文部省、学校教練に手榴弾投げなどを追加。
10（土）●独副総統ヘス、対英講和くわだて単独で英へ。
11（日）●野村駐米大使、日米諒解案に対し、日米中立を骨子とする修正案を米国務長官に提示。
12（月）●大日本青少年団本部に結婚相談所開設。
13（火）●東京―パラオ間の無線電話の開通式挙行。
14（水）●治安維持法違反者を刑期終了後も拘禁する予防拘禁所官制公布（15日施行）。
15（木）●無医村派遣の公医募集終了。定員の一・三倍。
16（金）●情報局、総合雑誌の編集企画案と執筆予定者リストの事前提出を通達。
17（土）●阿部定、恩赦で減刑され東京拘置所を出所。
18（日）●利根川で汽船が定員超過で転覆。四九人死亡。
19（月）●東京市、夏季ビール配給は一世帯八本と決定。
●インドシナ共産党、反仏・反日の統一戦線ベトナム独立同盟会（ベトミン）を結成。
20（火）●東京港、開港。芝浦埠頭に「妙見丸」が接岸。
21（水）●農林省、家庭用米の外米混入率を二三㌫増の六三㌫に変更。
22（木）●松岡外相、蘭印への武力南進も辞さずと言明。
23（金）●中国在留日本人は五〇万六二三〇人と外務省。
24（土）●神奈川県鵠沼で第一回「みそぎ錬成講習会」。
●夏場所優勝の羽黒山、横綱に昇進。
25（日）●北海道帯広一帯で零下〇・八度、一㌢の積雪。五月の積雪は帯広測候所開設以来の記録。
26（月）●石炭増産表彰で労働者一〇人に黒十字章授与。
27（火）●ルーズベルト米大統領、国家非常事態を宣言。
28（水）●巨人、四連覇。川上哲治が二度目の首位打者。
29（木）●神戸市滞在の亡命ユダヤ人、中東に向け離日。
30（金）●富士山吉田口の宿泊料決定。一等三円六〇銭。
31（土）●内務省、因習や迷信にしたがう生活打破のため大安・仏滅など記載の「偽暦」を発禁に。
●配給の増量をねらった東京市の幽霊人口（不正申告者）が四〇万人突破、と東京府調査。

◀**カンカン帽、純国産に(6月)**男子の夏用帽子として普及、高級品は中南米産のパナマソウを原料としていた(パナマ帽)が、この頃には入手難で、デパートの売り場も麦わらを堅く編んだ純国産もの一辺倒になった。

毎日新聞社

▼**東京府庁の鉄扉・鉄柵回収(6月23日)**明治時代の代表的建築物だった正門4枚860キロの鉄扉と、周囲の柵100メートル。撤去後は木製に代わった。4月1日、政府は金属類特別回収要綱を決定、それに応じたもの。

朝日新聞社

◀**重慶、「敵屍19万、俘虜8万」(6月)**5日、海軍航空隊が夜間爆撃するなど、蒋介石政権の根拠地を攻撃。大本営が「戦果」を発表したが、民間人多数が犠牲となった。

WWP

▼**「南京政府」汪兆銘来日(6月16日)**前年、南京に樹立された日本の傀儡政権の主席が、東京駅で近衛首相と握手。汪は日本の強力な支援を求めた。写真は駅正面玄関で歓迎陣の歓呼にこたえる汪(中央)。

毎日新聞社

◀**羽黒山(28)、横綱に昇進(6月3日)**前月の夏場所で優勝、昭和9年1月に立浪部屋入門以来、8年目で最高位を獲得した。左四つからの寄り切りで、双葉山と人気を二分、戦中の大相撲を支えた。写真は喜びの新横綱一家。

朝日新聞社

◀**移動演劇、全国へ(6月9日)**国策にそった演劇を普及させるため日本移動演劇連盟が発足。吉本移動演劇隊や文学座など約30の劇団が加盟した。写真は地方公演中の松竹国民移動劇団。

藤本四八/JPS

昭和16年6月

1(日)●東京市で屎尿の汲み取り券制度が復活。

2(月)●警視庁、町会・隣組が防空壕構築費の負担を強要しないよう各署に通牒。

3(火)●ヒトラー、大島大使に独ソ開戦不可避と通告。

4(水)●農林省、飼料確保のため夏休みに学生二〇〇万人を草刈りに動員と通牒。

5(木)●海軍航空隊、重慶に大規模夜間爆撃。

6(金)●大本営、対南方施策要綱(武力南進策)を決定。

7(土)●食用油が配給制に。一人三ヵ月に二合。

●豪雨で北海道雄武村のダム決壊。六〇人死亡。

8(日)●東京海上火災、米政府の勧告で米から撤退。

9(月)●愛知銀行など三行が合同し東海銀行設立。

10(火)●パリの日本大使館閉鎖。独の要請でビシーへ。

11(水)●大本営、蘭印交渉打ち切り、大使引揚げ決定。

●公定価格を「最高販売価格」に改称。

12(木)●横浜で紙芝居の菓子でチフスが集団発生。この日までに児童一二五人が感染。

13(金)●文部省、夏休みの医学生の無医村動員を指令。

14(土)●樋口一葉の遺稿を幸田露伴らが出版と新聞に。

15(日)●華中軍、揚子江下流域での「清郷工作」を決定。

16(月)●米内務長官、日本への石油出荷停止を要求。

17(火)●北原白秋・佐藤春夫らの提唱で大日本詩人協会発足。「詩歌による報国」が目的。

18(水)●来日中の汪兆銘主席、天皇・皇后と会見。

19(木)●出版文化協会、出版内容の統制と用紙節約のため用紙配給規程を決定。

20(金)●閣議、次年度から台湾に志願兵制実施と決定。

21(土)●モデル募集制限で絵画モデルも不足と新聞に。

22(日)●独、バルト海から黒海にいたる全域でソ連を奇襲攻撃(バルバロッサ作戦)。

23(月)●厚生省、農閑期の農村労働力を炭鉱などに動員する鉱山勤労報国隊の結成要綱を通牒。

24(火)●プロテスタント二八派が日本基督教団創立。

25(水)●大本営政府連絡会議、南部仏印進駐など南方施策促進に関する件を決定。

26(木)●関東軍、対ソ作戦準備(関東軍特別演習)を諸隊に示達(7月7日大本営、動員を命令)。

27(金)●西日本で二五日以来豪雨。死者一〇〇人に。

28(土)●徳田秋声、「縮図」、「都新聞」に連載開始(9月15日情報局の圧力を受け連載中止)。

●ユーゴに人民解放パルチザン部隊創設。

29(日)●ソ連共産党、対独祖国防衛戦争遂行を指令。

30(月)●厚生省人口問題研究所、結婚費用は平均四三九円、新婚の夫の月収は一〇一円と発表。

20世紀博物館

世界の貯金箱博物館 兵庫・尼崎市

コツコツ貯めこむ"日本型"、取り出し可能な"欧米型"

桑原茂夫

国が戦争状態に入ると、俄然、貯蓄がクローズアップされる。"節約しろ、そして貯めろ"がスローガンとなる。もともこの場合の"貯めろ"には結局軍資金として供出せよというウラがあるわけで、コツコツ自分だけで貯めこむなんてとんでもないこと。けっこう屈折したスローガンなのであった。

そんなところから、奇妙な貯金箱も生まれる。お金の入り口がたくさんある「隣組貯金箱」だ。しかも、誰がどれくらい入れたか一目でわかるようになっているのだから、コツコツ貯めるひそかな喜びなんて、とてもとても。いやな貯金箱があったものである。

同じ時代に、子どもたちにも貯蓄の習慣をつけようと、いろいろな貯金箱が作られているが、こちらはストレートに軍国調。兵隊さんやら砲弾やらがキャラクターになっていた。

とまあ、こういうことがわかるのも、兵庫県の尼崎信用金庫が運営する「世界の貯金箱博物館」があるからで、ここには古今東西九九三〇個もの貯金箱が収蔵されている。

◀貯金箱のキャラクターとして人気があった大統領ポール・クルーガー。

▶奥にでんとあるのが、布袋さまの貯金箱。口からお金を入れる隠し貯金箱でもあった。

▲お金の入り口がたくさんある「隣組貯金箱」。

ところで、貯金箱の大きな傾向として、日本のものは、貯めるだけ貯めこむタイプが多いそうだ。取り出す時は壊す時である。一方、欧米のものは、小型金庫のようなもので、いつでも取り出せるタイプのものが多いという。

やはり日本の貯金箱は、コツコツ貯めこむようになっているのだ。その典型を、江戸時代に使われていた、比較的大きな布袋さまの貯金箱に見た。

もちろん福を呼ぶ縁起をかついでの布袋さまなのだが、色といい艶といい陶製の置物にしか見えない。ところが実際持ってみたら、なんとまあ軽いこと! ハリボテだったのである。安価な素材で作るというのは、貯めて壊すという発想からすれば、むしろ当然で、理にかなっている。しかも、実際にお金が貯まっていけば、徐々に重くなっていくのだから、抱き上げてその重みを楽しむという効果がもくろまれていたのかもしれない。

布袋さまは縁起のよいキャラクターだが、ほかに貯金箱のキャラクターとして、昔から人気のある縁起ものに、宝珠や招き猫などもあげられる。外国の貯金箱によく用いられるブタは、多産の象徴として知られるから、これも一種の縁起ものだろう。

ちょっと変わったキャラクターに、一九世紀後半、南アフリカのトランスバール共和国の大統領になり、ビクトリア朝のイギリスに徹底的に抵抗したポール・クルーガーがいる。その独特の頑固そうな風貌が人気だったようだ。それにクルーガー以降、その地に金鉱脈が発見されたこともあって、縁起のいいキャラクターと考えられていたのかもしれない。

このように、ここには貯金箱から広がる話がいっぱい詰まっている。館長の山崎浩輝さんみずから、ヨーロッパの文献などを広げながら、「いやあ、勉強になります」と感嘆しきりなのであった。

▲戦時中の子ども貯金箱。男の子向け、女の子向けと多彩で、時代の雰囲気が感じられるものばかりだ。 平野美津子

●世界の貯金箱博物館
兵庫県尼崎市西本町北通三―九三
尼崎信用金庫本店別館内
☎〇六―四一三―一一六三
阪神電鉄阪神尼崎駅下車、徒歩五分
開館時間=一〇時〜一六時
休館日=日・月曜日、祝日、年末年始
入場無料

▲入り口から見たたくさんの貯金箱。1階2階合わせて270平方メートルある。

ベストセラー

時局もあって〝秀吉ブーム〟『新書太閤記』に圧倒的人気

〝太平洋戦争〟に突入したこの年までに、出版事情は年々厳しくなって来ていた。ここでいう出版事情とは、出版メディアに不可欠な用紙の確保と、検閲・発禁の問題に集約される。前年の昭和一五年に内閣情報部や内務省警保局などが「情報局」として一本化され、出版活動に対する国家、特に軍部の統制は一層強化された。用紙を確保して出版活動を続けるには軍部の意向を無視するわけにいかなかったのである。

そんな状況の中で生まれたベストセラーが、吉川英治『新書太閤記』（新潮社）、高村光太郎『智恵子抄』（龍星閣）、山本有三『路傍の石』（岩波書店）、三木清『人生論ノート』（創元社）などである。

なかでも『新書太閤記』は、すでに『宮本武蔵』などの作品で国民から圧倒的な人気を得ていた吉川英治の著作であり、しかも太閤秀吉の伝記的作品とあれば、情報局からも絶大な信頼が寄せられたようだ。昭和二〇年までに九巻刊行されたが、いずれも一〇万部前後の用紙を確保することができて、当然のようにベストセラーになった。

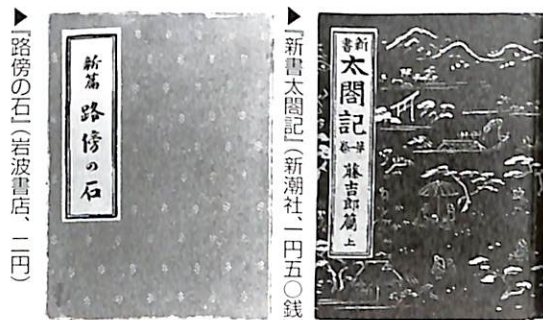
太閤秀吉は朝鮮侵略をくわだてるなど、アジアを支配の視野に入れており、アジア新秩序確立を唱える軍部にとっては、親しみやすい英雄だったに違いない。吉川英治もそれにこたえるかのように、第一巻の冒頭で、中国人女性に次のような言葉で日本人観を語らせている。「私の国では、あなたの国の人を、倭奴だの、東洋鬼だのと、恐れていますが、それは南の海岸や、揚子江を遡って来る、あの倭寇ばかり見て、それが日本人だと思いこんでいるからでしょう。……日本の国は、情義に強く、武勇に長けて、しかも優美な国だということもよく分っている」と。

しかし、物語の本筋は、戦国時代に力強く生きた少年の出世譚であって、少年時代の秀吉の傍若無人ぶりや智恵ものぶりが痛快に描かれており、まさに大衆を楽しませるものだった。

▲この年に創刊された「科学朝日」（50銭）。科学雑誌とはいえ、戦争記事が中心だった。

▶『新書太閤記』（新潮社、一円五〇銭）

▶『路傍の石』（岩波書店、二円）

日本近代文学館提供（2点とも）

スターと名場面

溝口健二監督「元禄忠臣蔵」に残る情報局の検閲の痕跡

この年公開された映画に、溝口健二監督の「元禄忠臣蔵」前篇がある。本編開始前に「護れ興亜の兵の家」という文字ばかりか「情報局国民映画参加作品」とあって、当時絶対的権力を持って検閲の目を光らせた、情報局の存在が誇示されているが、作品自体はどっしり構えて作られている。松の廊下の場面は、原寸大のセットをこしらえて撮影した（建築監督として、若き新藤兼人が起用されている）と言われているが、画面に奥行きはあるし、河原崎長十郎ら前進座の面々が重厚な演技を見せるなど、「時局」を感じさせない作品になった。

前篇は、松の廊下のシーンから始まり、浅野内匠頭の切腹を経て、赤穂の城の明け渡しまで。後篇は翌年公開された。また、清水宏監督の「みかへりの塔」もこの年公開された。不良少年や不良少女を収容した施設が舞台。彼らをリードする大人たちを含めて全員で、山の上からこの施設に水を引く工事を行い、ついにこれを完成させるというのがクライマックスだ。作品中、戦時下にふさわしい教訓がちりばめられてはいるが、思春期を迎えつつある多感な少年たちを軽いタッチで描いた映画だった。

また小津安二郎監督がこの年「戸田家の兄妹」を撮っている。父の死で没落する資産家一家の動向を、母と末娘（高峰三枝子）を中心に描いた作品。

この年は、ほかに次のような映画が公開された。

「昨日消えた男」（長谷川一夫）／「馬」（高峰秀子）／「白鷺」（入江たか子）／「秀子の車掌さん」（高峰秀子）／「次郎物語」（杉村春子）。

▲「みかへりの塔」で子どもたちを相手に奮闘する役の笠智衆と三宅邦子。

▶「戸田家の兄妹」で顔をそろえた人気スター。左から三宅邦子、高峰三枝子、桑野通子。

▼「元禄忠臣蔵」から、ご存じ松の廊下の場面。浅野内匠頭は嵐芳三郎が演じている。

松竹提供（3点とも）

モノ語り'41

「のらくら漫画かるた」「アップルワイン・ポケット」戦時下最後の〝生活のうるおい〟

▲戦時でもユーモアは忘れず　このカルタの名は「のらくら漫画かるた」。「少年倶楽部」連載の人気漫画、田河水泡の「のらくろ」のパロディー。よく見ると軍隊を揶揄しているように見えなくもない。もっとも本家の「のらくろ」の方も、軍隊のパロディーと目されたようでこの年10月号で、突然、連載中止になっている。　埼玉県平和資料館蔵

▲誉れ高いタバコが登場　この年3月にタバコの「金鵄（きんし）」が発売された（10本入り9銭）。中身は「ゴールデン・バット」だったが、英語は敵性語とあって取りやめ、日本語で表記された。この時、バットはコウモリとならずに、金鵄となった。金鵄は神武天皇の戦いにゆかりのある金色のとびのことで、当時は戦争功労者に下賜される勲章の名（金鵄勲章）にも用いられていた。　埼玉県平和資料館蔵

▼陶製の代用品が流行した時代　すでに不要不急の鉄製品の回収は始まっていたが、昭和16年8月には金属類回収令が出て、金属製の台所用品なども供出させられた。それによって、瀬戸地方などの窯業地域では、さかんに陶製の日用品が生産されるようになっていった。この「陶製ストーブ」もそのひとつである。　瀬戸市歴史民俗資料館蔵

▲子どもにも戦時下の心構え　子どもの着物に戦時下の教訓が描かれている。兵士のかっこうをした子どもが赤ちゃんに水を飲ませていて、まさに挙国一致が意味するところを子どもにもわかるように図解した絵柄だ。慰問袋も、前線との一体感を示す象徴的なものとして描かれたのだろう。『麦と兵隊』は火野葦平の小説。昭和13年刊行のベストセラー。　埼玉県平和資料館蔵

▶ウイスキーとアップルジュースの間に　昭和15年にすでにニッカウヰスキーを出荷していた大日本果汁（現・ニッカウヰスキー）は、この年「アップルワイン・ポケット」を製造・出荷した。ちなみにニッカとは社名の略称「日果」から生まれた。もともとはアップルジュースの製造販売を表向きの本業としていたのである。

◀オマケつきグリコがんばる　子どもにとって、食べることと遊ぶことは天職だという信念のもとにグリコ（現・江崎グリコ）が売り出した、玩具のオマケつきグリコだが、戦時下の物資不足の中では、紙と粘土を素材とした玩具しかつけられなかった。10粒入り（5銭）と20粒入り（10銭）の2種。しかし翌昭和17年には物資統制強化で、このグリコの生産も中止された。

◀高度な技術水準を示す時計　海軍に納められた第二精工舎（現・セイコー電子工業）製作の「航空時計」。当時の技術水準の高さを知るのにかっこうの時計だ。国産初のセンターセコンド（秒針が文字盤の中心を軸に動くタイプ）で秒針が見やすい。また、回転ベゼル（時計の周囲についている目盛り部分）により、残り時間や経過時間が把握しやすくなっている。ケースの素材には、軽く腐食しにくいニッケルクロームが使用された。

人物クローズアップ

高村光太郎（五八）

妻への変わらぬ愛を歌いあげる詩集『智恵子抄』ベストセラーに

昭和一六年八月二〇日、高村光太郎（五八）の詩集『智恵子抄』が龍星閣から出版された。『道程』に続く、光太郎のこの第二詩集は、妻・智恵子との出会いからその死、さらには死後にいたるまでの、光太郎の智恵子に対する一貫して変わらぬ愛を歌いあげたもので、一六万部というベストセラーになった。

高村光太郎は、明治一六年三月一三日、東京市下谷区（現・台東区）に、高村光雲の長男として生まれた。光雲は東京美術学校教授・帝室技芸員で、明治彫刻界の重鎮の一人である。

光太郎は明治三〇年、東京美術学校予科に入学。翌三一年、本科彫刻科に進んだ。その頃から文学に親しみ、与謝野鉄幹の「新詩社」に入って、「明星」に短歌、詩、戯曲などを発表している。

光太郎にとって大きな転機となったのが、三九年から四二年までの、米・英・仏への遊学であった。特にパリでは、真の自由と芸術のあり方を学んだ。帰国後、光太郎の前に一人の女性が現れる。その名は長沼智恵子。遊学中、ニューヨークで出会った友人、柳敬助の妻・八重子の紹介であった。

智恵子は、明治一九年五月二〇日、現在の福島県安達郡安達町生まれ。日本女子大在学中から油絵を習い、卒業後も太平洋画研究所にかよって、女流画家の道を歩んでいた。

智恵子は新しい女性だった。控え目でありながら、個性豊かで自立性に富む、時代の先頭を行く女性であった。そういう智恵子に、光太郎は強く魅かれていく。そして、智恵子もまた同じだった。

大正三年一二月、二人は結婚した。

その結婚は理想的で、ゆるぎのないもののように思われた。しかし、智恵子の中に、女性としての自立をめざす自分と、愛する光太郎のためにつくす自分との、相反する心の葛藤が生まれ始める。

昭和六年、智恵子に精神分裂の兆候が現れる。彼女の死は、一三年一〇月五日。精神分裂病に、粟粒性結核を併発してのことだった。享年五二。

この、智恵子の死を境に、光太郎の詩が一変した。戦争賛美の詩を、次々と発表していくのである。光太郎のこの変化について、詩人の嶋岡晨氏は次のように述べる。

「若い頃から愛読した『禅宗無門関』、そこから得た禅的な諦め、開き直りが、光太郎のヒューマニズムを一変させます。すなわち、死の賛美、軍国主義の賛美、そして多くの戦争協力詩の誕生です。智恵子の死が、その愛の挫折が、光太郎を戦争協力詩へと向かわせた、と断言できます」

戦後、光太郎は岩手県花巻市郊外で隠棲生活に入る。それはもはや、智恵子に対する贖罪のための余生であった。

昭和三一年四月二日、光太郎は東京・中野のアトリエで七三年の生涯を閉じる。この日、中野に春の雪が激しく舞った。

▲智恵子の紙絵「花」。昭和11年病室で制作を始め、遺作は千数百点にのぼる。 高村規提供

▶智恵子を歌った大正元年からの詩29編がおさめられた光太郎の詩集『智恵子抄』。

▲昭和2、3年、光太郎は智恵子をともない2度箱根の大涌谷を訪れる。写真は昭和3年、智恵子の母・セン（左）が同行した時のもの。 高村規提供

▲5月19日、瓦礫となった議事堂跡に立つチャーチル。同日、地中海のクレタ島では、4万人の連合軍兵士が救出を待っていた。首相の苦悩は続く。 CORBIS-BETTMANN PPS

決定的瞬間

武器はウイスキー・アンド・ソーダ そして葉巻と辛辣なユーモア！ 大英帝国を支えたチャーチルの戦い

「満月だ。寝ようとした時に、ロンドン最悪の空襲のひとつが始まった」。英国首相ウインストン・チャーチル（六六）の秘書官をつとめていたジョン・コルビルは一九四一年五月一〇日の日記（ダウニング街日記』平凡社）にこう記している。

一九四〇年五月、イギリス軍はダンケルクから辛くも撤退し、残ったフランス軍は壊滅。以来、欧州ではイギリスのみがドイツと戦っていた。

この夜の爆撃は市の中心部を襲い、翌日の朝も街は燃え続けていた。ウエストミンスター寺院、議事堂（下院）なども被災し、ロンドン名物の時計台〝ビッグベン〟は直撃弾を受けた。

写真は五月一九日、下院の焼け跡に立つチャーチルである。議会制民主主義の牙城が無惨な瓦礫と化している。しかしたび重なる空襲にも、一八世紀に完成したセントポール大聖堂のように、被害を受けなかった建物もある。高さ一一〇㍍というドームはどんな空襲にも超然とそびえ立っており、ロンドンっ子たちの心の支えにもなった。

前年八月から始まった「バトル・オブ・ブリテン（イギリスの戦い）」は、イギリス本土侵攻を目的とした「アシカ作戦」を準備するドイツ軍により始められ、約一〇ヵ月にわたるドイツ空軍の猛爆撃が続いていた。イギリスはこの空爆に耐え、逆にドイツの諸都市を爆撃し返すという、空軍を主体にした戦いを展開した。この空爆でイギリスの非戦闘員六万人（ロンドンで三万人）が死亡。死傷者数は当初予想していた数字（二〇〇万人近く）よりはるかに少ないものではあったが、明日にも敵がドーバー海峡を渡って侵攻して来るという切迫した中で、連日の空爆に耐えるのは大変な重圧だ。

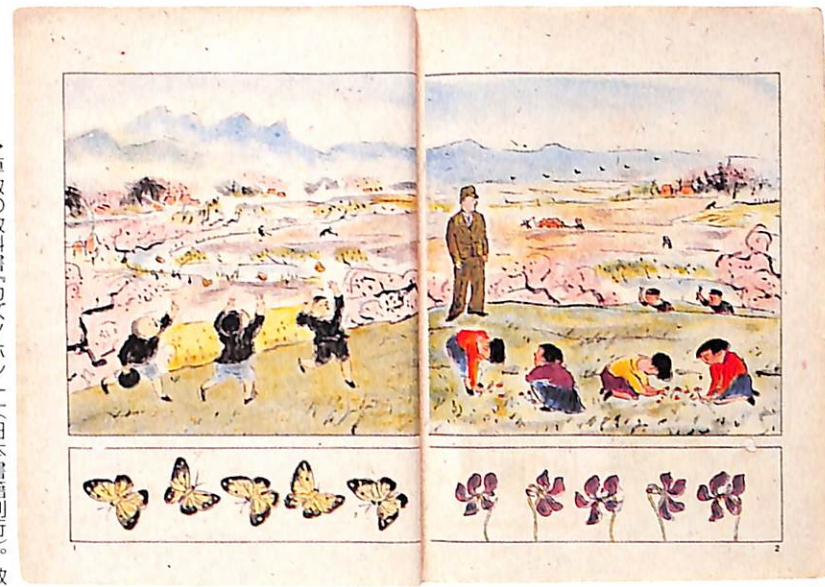
イギリス国民が悲観論に傾かなかったのは、チャーチルの功績に負うところが大きい。ウイスキー・アンド・ソーダと葉巻、辛辣なユーモアを武器に、彼は一人で大英帝国を支えていたのだ。

「我々は敵の侵入を待ち受けている。魚たちもそうである」、ドイツ軍が攻めて来たら海にたたき落とし、魚の餌にしてやろうではないか、と国民に訴えかけた。そして、閣議や国際会議に出席、議会で演説、ラジオ放送に出演、被災地を視察と、不眠不休で働いた。もっとも不眠症で悩む彼は寝なくても平気だったのかもしれない。

ロンドン空襲が激しくなった頃から、チャーチル自身も首相官邸の中に造られた避難所で寝ることが多くなった。派手なガウンをまとい、手に鉄兜を持ってベッドに入ったが、空襲が始まると屋上に出て見物したがるので、秘書官たちは彼を引きずりおろすのに苦労した、という逸話も残っている。

▲空襲下のロンドンの子どもたちは、毒ガス攻撃に備え写真のようにマスクを装着して地下に避難する訓練を受けた。 Popperfoto ユニフォトプレス

美の出会い

「アカイ アカイ アサヒ アサヒ」カラフルな挿絵の国定教科書が登場

▲算数の教科書『カズノホン 一』(日本書籍刊行)。教科書監修官は自然の中に題材を求めたという。

山中恒提供

昭和一六年三月一日、国民学校令が公布され、四月一日に施行、小学校は尋常小学校から国民学校へと名称を変えた。これにあわせて教科書も改訂され、まず初等科一・二学年用の教科書が発行された。国語は『ヨミカタ』と『コトバノオケイコ』、修身は『ヨイコドモ』、算数は『カズノホン』、音楽は『ウタノホン』という題名がつけられた。いずれも、文章は極力少なくし、暖色系の明るい色彩と童画風のイラストを主体にした、子どもたちに親しみを与えるつくりとなっている。

子どもが初めて出会う国語の教科書『ヨミカタ 一』の最初の見開きは、赤や黄色で描かれた絵本のような挿絵の上に、「アカイ アカイ アサヒ アサヒ」という文章が載っている。次いで「ハト コイ コイ」「ヒノマルノ ハタ バンザイ」と続く見開きには、男の子と女の子がハトと遊ぶ生き生きとした姿や、風になびく日の丸の動きのある絵が描かれている。

それまで使われていた第四期の教科書から色刷りにはなっていたが、イラストの色づかいやタッチは上品で冷たく静的だったのに対し、第五期の教科書は、明るく動的で、子どもの生活感覚により近づこうとしていることがうかがえる。

『ボクラ少国民』などで知られる児童読み物作家の山中恒氏(六五)が、当時の教科書について回想してくれた。

「ちょうど弟が小学校に入学し、新しい教科書を持ってきたのです。色彩が明るくなった教科書を見て、ずいぶん洒落た教科書になったなという感じがしました。第五期の教科書は、軍の要望のほとんどが通ったトンデモナイ教科書ではあるけれど、当時の教育技術の粋を集めて作られていますね」

山中氏が小学校一年で使ったのは、昭和八年の第四期国定教科書改訂で作られた「サイタ サイタ サクラ ガ サイタ」で始まる『小学国語読本』である。

文部省図書局の監修官・井上赳らは、第四期国定教科書改訂にあたり、欧米を視察し教科書や教材についての知識を吸収してきた。その成果は第四期で色刷りの挿絵を豊富にするなど、画期的な編集に現れている。

その考えは第五期でも徹底され、国語、音楽、修身教科書に共通の関連教材を設けて体系化し、総合教材方式を導入したり、教科内容を身近な生活指導に結びつけたりして、児童の発達にそって指導を進められるような教育技術面での工夫がなされていた。

「当時の子どもたちは、教科書の持つイデオロギー的な側面への関心よりも、むしろカッコイイ教科書として見ていたのではないでしょうか。しかし、小さな子どもたちに、こんなことまで教えるのかと思えるようなところがありますね。それまで、修身の教科書にはいつも出ていた日清戦争のラッパ手・木口小平は消えてしまいました。一人の英雄ではなく、総力戦でみんなで戦えという方向になりましたね」

▲掃除もみんなで一斉に。東京・銀座の泰明国民学校で。 藤本四八 JPS

▲第5期国定国語教科書『ヨミカター』(日本書籍刊行)。文字は少なくまるで絵本のようなつくりである。子どもたちは"楽しく学びながら"軍国主義へと誘導された。 山中恒提供

と言いながら山中氏は、修身の教科書『ヨイコドモ上』の見開きを指摘する。

テキノタマガ、雨ノヤウニトンデクル中ヲ、日本グンハ、イキホヒヨクススミマシタ、テキノシロニ、日ノマルノハタガ、タカクヒルガヘリマシタ、バンザイ、バンザイ、勇マシイコヱガヒビキワタリマシタ

従来の小学校が義務教育六年制だったのに対して、国民学校は初等科六年、高等科二年の八年制になった。総力戦体制に見合う国民づくりと兵士の資質向上をはかるという軍事的観点から、義務教育の延長が求められたのだった。そして第五期国定教科書の編纂作業は、陸軍教育総監部から高橋少佐以下数名が出向し、軍の協力のもとに進められた。その結果、全面的に改訂された教科書は、戦時体制下で「皇国民」を錬成し、「聖戦」を遂行するという軍国主義的色彩の濃いものとなった。

以後、昭和一八年には物資不足の折から色刷りの挿絵は消えて、墨一色になる。そして終戦後は一時、文部省次官通牒の形で、教科書の軍事的・国家主義的要素の強い部分が削除・訂正され、いわゆる「墨ぬり教科書」として使われた。

昭和二一年七月、GHQ(連合国総司令部)から地理が、次いで九月に公民、一〇月には日本歴史の授業再開が許可され、新しい教科書のもとで、戦後の新教育がスタートすることになる。

「現場」を歩く

江田島

今も旧「海軍兵学校」を訪れる一〇万人の胸のうち

山本徹美

昭和一六年一一月二二日、広島県江田島にある海軍兵学校の新庁舎が竣工。翌月一日、入校生徒数は九〇一人と前年を三〇〇人近く上回る合格者数となった。

海軍士官の養成施設である海軍兵学校は明治二年九月、東京・築地に海軍操練所として設置され、明治二一年八月、江田島に移転。太平洋戦争終結により昭和二〇年一一月一日閉校。この七六年間の卒業生は二万五七九九人にのぼる。

▲旧海軍の歴史が集約されている教育参考館。東郷平八郎、山本五十六両元帥の遺髪をはじめとして、特攻隊員の遺書、遺品にいたるまで収集、保存されている。 但馬一憲

広島県
廿日市市
広島市
旧海軍兵学校
厳島
大竹市
江田島
呉市
西能美島
岩国
瀬戸内海
東能美島
倉橋島

広島（宇品）港から高速艇に乗って約二五分、江田島の小用港に入港。そこからバスで約五分、「第一術科学校前」で下車した。門に「海上自衛隊」とある。「旧海軍兵学校・定時見学」受付用紙に住所、氏名、年齢、職業を記入すれば誰でも無料で入場できる。

私も一見学者として参加すべく受付用紙に記入する。何気なく目を落としたところ、この日の来訪者は二〇人。居住地は関東、信越、九州、広島と全国各地で、二〇代から七〇代まで年齢層は幅広く、職種も公務員、会社員、主婦、陸上自衛隊員とさまざまだ。しばらくすると、引率する広報係が現れ、

「旧海軍兵学校は、昭和二〇年一二月から、三一年一月までの一〇年間、米軍および連合国軍に接収されていました。返還後、海上自衛隊が術科学校、幹部候補生学校の施設として使用しています」

と、解説して、見学開始。

「ここの敷地は五三万平方メートル。東京ドーム四一個分の広さです」

広報係の説明が続く。北側に立つ煉瓦造りの生徒館（現・幹部候補生学校）は明治二六年に完成したもので、その煉瓦はすべて英国製。一個ずつ油紙に包まれ、英国軍艦で運ばれたものだという。その向かいに木造二階建ての山奥の分校のような建物がある。それが昭和一六年に完成した「庁舎」であった。

「大切なのは生徒。教官用の建物など廃材で充分」と安普請ですまされたという。

共同通信社

▲七つボタンの短い上着、短剣を腰に吊った兵学校生徒の軍装は、若い世代の憧れの的だった（昭和17年撮影）。

涙ぐむ老婦人の姿も

イオニア様式風六本柱を正面に配した教育参考館の中には、みずからの生命を犠牲にして散っていった海軍士官や特攻隊員の遺書などがおさめてあった。フェリーで呉からやって来たという六〇代の男性は某農協の団体客の一員である。

「兵学校には頭も運動神経も優れてないと入れんと聞いていた。私らには縁がないが、憧れはあったよ。一回、どんなところかのぞいてみたかった」

館内では遺書や揮毫への賛嘆をよく耳にした。が、私は一瞬、殺人事件の資料を調べている時と同じ気分におちいった。戦争も人殺しには違いない。それを強いられた無垢な青年たちの心中を察すると、やりきれない。「この若さで……」と息を詰まらせ涙ぐむ老婦人の姿も。

海軍兵学校には全国各地から毎年一〇万人前後の見

騎馬警官隊も出動した「日劇七まわり半事件」

四〇分のショーに一〇万人の大群衆！

女優「李香蘭」過熱人気の秘密

大陸親善映画の大ヒットで爆発的人気の〝満州国スター、李香蘭〟。そのワンマンショー初日、エキゾチックな容貌と甘い歌声に魅せられた群衆が日本劇場に殺到し、付近は大混乱におちいった。折しもその日は紀元節、宮城遥拝を終えた学生たちも合流し、「日劇七まわり半事件」と称される社会的事件にまで発展した。

▲可憐な美人で、語学と歌の才能に恵まれた李香蘭は、親日派中国娘としてスクリーンに登場し、日本の観客を魅了した。 藤本四八／JPS

〝暴動〟寸前の群衆に警官がホースで放水

「私の舞台にあんなにも人が集まるなんて思ってもいませんでしたし、歌い終わった後のウォーッという津波のような歓声には本当にびっくりしました。劇場の外で何が起きていたかは翌朝の新聞で知りましたが、自分がそんなに有名だったのかとまたまたびっくり。それは私の人気というよりも、中国大陸への夢やロマンをかきたてた国の政策、砂糖の配給など戦時下の統制で息苦しくなった生活に対する不安や、芝居などの娯楽を奪われた若者たちの行き場のないエネルギーなど、さまざまな条件が重なってあのような騒動になったのだと思います」

当時を振り返り、こう語るのは当の御本人、現在の大鷹淑子さんだ。

昭和一六年二月一一日、「歌ふ李香蘭」が催される東京・有楽町の日本劇場の周辺は異様な雰囲気に包まれた。「早く扉を開けろ！」「横からわりこむな！　押すな押すな！」

寒空の下、九時半の開演を前に、早朝六時頃から五〇〇人ほどが切符売り場に集まり、八時すぎには数千人の行列が劇場を二重三重に取り囲んだ。

▲「日満親善、歌の使節」として出演した李香蘭を一目見ようと、群衆は日劇の周囲を「七まわり半」も取り巻き、物議を醸した。　朝日新聞社

九時すぎには、切符を手に入れ開場を待つ人と、これから切符を求めようとする人の二つの大きな人の流れが、数寄屋橋方面と有楽町方面に渦巻き、劇場に隣接する朝日新聞社の自動車は次々に横倒しにされるほどであった。

日劇の定員は二二〇〇人、公演は一日三回。劇場側は入場時間を早めたが、以後の公演を待つ人々は劇場の地下街からあふれ出し、裏通りをも埋めつくした。

開演後も群衆はその場を引き上げようとはしなかった。そして一〇時、丸の内署の警察官二十数人と騎馬警官隊、それに劇場側の警備員二〇〇人も動員され、整理にあたるという異常な事態となったのである。

しかし、切符を買えなかった人々の不満はおさまらなかった。怒号が飛びかい、騒動にも発展しそうな状況に、警察官は消火用ホースを持ち出し冷水をあびせかけて追い払う。金沢丸の内署署長は日劇のバルコニーから「建国祭の今日をもっと有意義にすごす方法を考えてはどうです。今すぐ入場をあきらめて帰りなさい」と叫んでいた。

一〇万人ほどに膨れあがった外の騒ぎをよそに、場内は興奮の坩堝にあった。

公演は映画とショーの組み合わせで、長編記録映画「蘭印探訪記」に中編劇映画「島は朝やけ」、そしてショーが「建国祭記念、日満親善、歌の使節歌ふ李香蘭」。入場料金は八〇銭であった。おめあてのショーは約四〇分、「蘇州夜曲」や「支那の夜」など、異国情緒たっぷりに歌う李香蘭（一九）の一挙一動に観客は酔いしれた。

しかし翌日の「朝日新聞」では、人々の熱気と期待とはうらはらに、「何といふ醜態、何といふ無分別、群衆の内訳はざつと男七分の女三分、男の半数は学生の服装であり、女は総じて二十歳前後」と報じられた。

▲昭和一三年、満映にスカウトされ、「蜜月快車」でデビュー。
大鷹淑子提供

▲昭和一六年、「蘇州の夜」で佐野周二（右）、水戸光子と共演。
大鷹淑子提供

▲昭和一八年、島津保次郎監督を満州に呼んで製作された「私の鶯」。
平凡社提供

日本人として生まれ中国人社会に育つ

そもそも李香蘭とは、満鉄（南満州鉄道株式会社）の社員を父に、大正九年、中国の遼寧省撫順で生まれた日本人で、本名は山口淑子。李香蘭の名は一三歳の時、中国では習わしとなっていた父の親しい友人・李際春将軍との名目上の養子縁組でつけられた中国名であった。

中国人社会で育った彼女にとって、その名前は、ごく自然に身についたものだったが、それが彼女の運命を大きく変えることになった。

奉天のラジオ局にスカウトされ歌手として出発した李香蘭は、北京で学生生活を送っていた昭和一三年、「五族協和、日満親善」の国策遂行のために作られた満映（満州映画協会）にみいだされ女優としてもデビュー。その後「支那の夜」など数多くの映画に出演し、〝中国人女優〟として人気を博したのである。

戦後、「李香蘭」の名を捨てた山口淑子は、昭和六二年に出版された『李香蘭私の半生』（新潮社）のあとがきに「なぜ、このような映画に出演し、〝中国人女優・李香蘭〟として演技しなければならなかったのか。それをこの齢になって気づかされた自分が情けなく、眠れない夜が何ヵ月もつづいた」と記している。

そして、この本の共著者で時事通信社解説顧問の藤原作弥氏は、李香蘭の人気について、「暗いささくれだった世相に咲いた美しい一輪の花として、大陸への憧れの象徴として、そして謎に包まれた生いたちに対する好奇心などが重なり合い、人々の心をひきつけたのだと思います」と語った。

日中両国の暗い時代のはざまに生きた〝李香蘭〟こと山口淑子。国会議員を辞した今も、従軍慰安婦問題について、立場こそ違え、ともに味わった戦争の傷痕をいやすべく日々取り組み続けている。

▲昭和16年7月14日、世界経済調査会の主催で開かれた「東亜共栄圏親睦の集い」に出席。　「国際写真情報」国際フォト

フォト＋日録で再現する365日

▲日本軍、南部仏印進駐（7月28日）仏領インドシナのカムラン湾北部に上陸。石油などの資源を求め前年、北部へ侵入したが資源入手に失敗していた。写真はサイゴンに進駐した陸軍の自転車部隊。

朝日新聞社

▲女学生には野球がいい（7月）1月の閣議で「生めよ殖やせよ」の政策が掲げられ、女性に体力増進が求められるようになった。長野県上田高女では体育に野球を試み、協調精神も養うと自賛した。

毎日新聞社

▼東京地方で2日にわたる豪雨（7月11日）翌日と合わせて158ミリにも達し、下町の江東方面では床下浸水が続出した。写真は12日冠水した亀戸7丁目付近の学校前道路。

共同通信社

▲大本営「対米英戦も辞さず」と決定（7月2日）御前会議でひそかに打ち出され、対ソ・対米英の二面作戦を決定した。首相官邸で行われた記者会見（写真）では「重要国策の決定をみたり」とだけ発表された。

▶軍用犬がパレード（7月7日）「支那事変」勃発4周年のこの日、大陸戦線で伝令・哨戒、負傷者の捜索などに活躍した犬たちが東京市中を示威行進した。種類はシェパード、エアデールテリアなど。

毎日新聞社

ARCHIVE PHOTOS／ユニフォトプレス

◀チトー、ユーゴで対独レジスタンス（7月）4月に枢軸軍に全土を占領されたが、イタリア占領下のモンテネグロを拠点に部隊を指揮、祖国解放に挺身した。写真は連合軍の連絡者を待つチトー（右）。

昭和16年7月

1（火）●全国の隣組が一斉に常会を開催（月一回）。
2（水）●御前会議、南進で対英米戦、北方で対ソ戦準備の「情勢の推移に伴う帝国国策要綱」を決定。
3（木）●農林省、おやつ不足で水飴の配給統制を通牒。
4（金）●文部省、国民学校の成績を「甲乙丙丁」から「優良可」の三段階評価方式に変更。
5（土）●日中戦争の敵損失は三八〇万人と大本営発表。
6（日）●警視庁、隅田川の川開きの花火中止を通達。
7（月）●朝日新聞、用紙節約で夕刊を二ページに半減。
8（火）●土方与志、亡命先から帰国、上陸直後に逮捕。
9（水）●奈良県の生駒山に太陽観測専用天文台が完成。
10（木）●関門海底鉄道トンネルが貫通（17年11月開通）。
11（金）●簡易生命保険の契約高が一〇〇億円突破。
12（土）●本土防空を指揮する防衛総司令部、編制完了。
13（日）●厚生省、混雑緩和で団体旅行と全国競技大会（明治神宮大会をのぞく）の中止を通達。
14（月）●大阪府産業報国会が巡回音楽講座開催。機械の故障を音で判別、がねらい。
15（火）●あたれば額面一円が五〇〇円になる「豆債券」（特別報国債券）発売開始。
16（水）●鉄道省、三等寝台車を廃止し食堂車を削減。
17（木）●警視庁、旅館不足解消のため、芸妓屋などの旅館への転業規制緩和を通達。
18（金）●日本郵船、サンフランシスコ航路を休止。
●選手権制となった初代本因坊に関山利一六段。
19（土）●警視庁、婦人雑誌の統合・整理を指示（8月23日八〇誌が一七誌に整理される）。
20（日）●初の海の記念日。「海洋思想高揚」のため制定。
21（月）●文部省、国民道徳の解説書『臣民の道』刊行。
22（火）●関東・東北に三年ぶり台風による豪雨。二四日にかけ死者六六人、行方不明三二人。
23（水）●未亡人助成会設立。低利資金貸し付けなど。
24（木）●この年上半期の会社合併は一七二件と興銀。
25（金）●市内電報・時間外電報・慶弔電報を停止。
●米、在米日本資産凍結を発令（26日英も）。
26（土）●米極東陸軍総司令官にマッカーサー任命。
27（日）●前日出発の一〇〇キロ錬成強歩大会（神奈川県高津町―明治神宮）、一二〇〇人が完歩。
28（月）●日本軍、南部仏印への進駐開始。
29（火）●日本軍の仏印進駐を認める日仏（ビシー政権）議定書が発効。
30（水）●海軍、揚子江で米艦「ツツィラ」に爆弾誤投下。
31（木）●警視庁、綿製品などの公定価格違反が目立つとして取締り強化と違反者摘発を決める。

証言・あの日この日
黒田三郎（22）

11月27日(木)〈また本が欲しくなって来た。欲しい本のブロックを六に分ける。先ず学校の講義に対するテキスト及参考書。第二、貨幣論……。第三に人類学、之は間口が広い。考古学的なもの、心理学からはいるもの、社会学からはいるもの、等々。第四、南洋に関するもの、この中には、第三へと繋がるものと経済学に繋がるものとがある。第五、ゲシュタルト心理学、そしてそれから新しく出るニイチェ選集、ヴァレリイ全集及リランダン全集等の新刊〉(『黒田三郎日記』)

東京帝大経済学部に通う若き日の詩人・黒田の読書欲はすごい。それがピークに達するのは戦争が勃発する12月8日のことだ。〈うれしさの余り岩波文庫ばかりやたら買った〉と述べた後、27冊もの文庫本の著者とタイトルを日記に書きしるしていく。（坪内祐三）

毎日新聞社

▲模型飛行機ブーム（8月）陸・海軍航空部隊のニュース、太平洋横断旅客機の登場が子どもたちの関心をひき、人気が高まった。翌年9月には模型工作が国民学校の正課にもなった。写真は東京・戸山ケ原で行われた模型グライダー大会。

朝日新聞社

◀隣組の鼻緒作り（8月10日）兵庫県芦屋市の町内会が慰問資金をひねり出すため、町内会長宅に夫人たちを集めて製作した。原料は廃品。7月、内務省は全国の隣組に常会の設置を呼びかけていた。

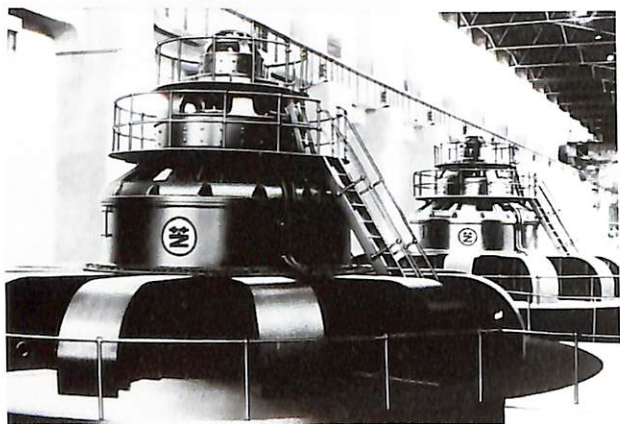
▼水豊発電所、送電開始（8月25日）朝鮮と満州（中国東北部）の国境近くの鴨緑江で、この日一部が竣工。9月には満州・朝鮮へも送電した。写真は稼働する芝浦電気製発電機。

▶カンボジア国王シアヌーク（18）、日本への忠誠発表（8月25日）祖父王の死後、即位にあたって、日本に頼ることで平和が保たれると挨拶。写真は葬儀に列席する新国王。

「国際写真情報」／国際フォト

東芝提供

▶落下傘部隊、秘密訓練（8月）前年、東京・二子玉川の読売遊園地に落下傘塔ができ公開されていたが、8月頃から陸軍が17年実施のパレンバン降下作戦の訓練に使い始めた。

国際報道工芸／JPS

昭和16年8月

1（金）●国民学校と中等学校、臨海・林間学校を全廃。
●米、日本への石油輸出禁止を発表。
2（土）●大政翼賛会中央訓練所の第一回特別修練会。作家・横光利一ら「みそぎ」に参加。
3（日）●非常時の食糧確保目的に中央食糧協力会設立。
4（月）●ラジオ聴取契約者数が六〇〇万件突破。
5（火）●厚生省、工場労働者の結核患者激増に、工場労働者一五万人の半強制的検診を決める。
6（水）●大本営政府連絡会議、日ソ開戦回避を決定。
7（木）●浅草の履物材問屋、下駄一万足を陸軍に献納。
8（金）●文部省、動員強化で報国隊の再編成を訓令。
●横須賀海軍工廠で空母「翔鶴」竣工。
9（土）●参謀本部、一一月末の対米英作戦準備を開始。
10（日）●鉄道省、ガソリン節約のためガソリンカーの運転を削減、蒸気機関車での一部代替を実施。
11（月）●東京湾沿岸住民三万人にコレラ予防接種開始。
12（火）●物価対策審議会、買い入れ価格引き上げ、販売価格を据え置く米価の二重価格制採用を決定。
13（水）●大本営陸海軍部、南方作戦図上研究を行う。
14（木）●平沼騏一郎国務相、右翼構成員に狙撃される。
●英米、領土不拡大など大西洋憲章を発表。
15（金）●東京・豊島区の町内会、共同献立の配給開始。
16（土）●情報局、映画の国家統制に乗り出し、各社にフィルム配給の制限強化を通告。
17（日）●東京で軍需産業労働者の初の街頭求人を実施。
18（月）●翼賛会、職業のほかに、一定期間食糧増産などの勤労奉仕をする国民皆労運動推進を決定。
19（火）●上野動物園で野菜の代用餌に青草と新聞に。
20（水）●高村光太郎の第二詩集『智恵子抄』刊行。
21（木）●東京の交通緩和に五百余の停留所を廃止し、電車・バスの「急行制」実施。
22（金）●閣議、鉄鋼など重要物資自給体制確立を決定。
23（土）●俳句作家協会、高浜虚子・水原秋桜子らが全国の工場をめぐって句作指導と決める。
24（日）●英首相、米が対日宣戦すれば米に協力と放送。
25（月）●鴨緑江水豊水力発電所、満州国へ送電開始。
26（火）●蘭印経済相、日本への資源供給中止と声明。
27（水）●農林省が代用コーヒーの原料をさつま芋やゆり根など数種に規格化と新聞に。
28（木）●近衛首相、ルーズベルト米大統領に日米首脳会談開催を提案（9月3日大統領拒否）。
29（金）●住宅営団、傷痍軍人を管理人に採用。
30（土）●大学に軍事教練担当の現役将校の配属開始。
31（日）●鉄道省、国際観光局ニューヨーク事務所閉鎖。

松田正志／JPS

◀**庶民の娯楽にも統制の波(9月)** 国策にそった演奏会や映画が奨励され、外国映画も人気を集めたが、9月になると映画会社が3社に統合され、製作本数も激減。12月には俳優の芸名禁止など規制が強まった。写真は昼下がりの浅草興行街。

PPS

▲**アウシュビッツで毒ガス処刑始まる(9月3日)** ナチスはこの日、ソ連兵捕虜650人とユダヤ人の囚人250人を処刑した。以後、各地の収容所で合計1000万人が虐殺された。写真はナチスから逃れアメリカに向かうユダヤ人一家。

朝日新聞社

◀**5年ぶりの皆既日食観測(9月21日)** 台湾・基隆北部の富貴角(フーコイ岬)灯台の観測隊が見守る中、午後1時41分、黒い太陽が空に浮かんだ。最初の1分間は雲にさえぎられたが、まもなくコロナが現れ観測に成功。この日食は西日本一帯でも見ることができた。

▶**レビュー「大空の母」(9月20日)** 航空日を記念し、8月26日から宝塚の雪組が宝塚大劇場で公演したもので、初音麗子、園井恵子、月丘夢路らが出演した。軍事航空思想の普及がねらいだった。

国際報道工芸／JPS

◀**華中派遣軍、長沙作戦開始(9月18日)** 湖南省の国民党軍を一掃するため、洞庭湖南岸に上陸。27日、重要拠点の長沙を占領した。写真は進撃する戦車部隊。報道用の写真のため砲身などが書き替えられている。

「国際写真情報」／国際フォト

昭和16年9月

1(月)●東京市、小麦粉など生活必需品の配給切符をひとつにまとめた集成切符制を実施。

2(火)●翼賛議員同盟創立(衆院議員倶楽部は解消)。

3(水)●ナチス、アウシュビッツで毒ガス処刑開始

4(木)●小麦粉で作られた代用消しゴムを新聞が紹介。

5(金)●日本郵船の「春日丸」を改造した特設空母(後に「大鷹」と命名)が完成。

6(土)●御前会議、帝国国策遂行要領を決定。七月二日の「要綱」を改定、対米英開戦を決意。
●逓信省、全国九ブロックに配電会社設立命令。

7(日)●東京の玉川学園で全国初の落下傘訓練台完成。

8(月)●独軍、レニングラードを包囲。

9(火)●農林省、味噌・醤油の統制を実施。

10(水)●農林省、魚介一七七種の新公定価格を決定。

11(木)●警視庁、府下のハイヤー、タクシー各社にガソリンの使用を全面的に中止と通告。

12(金)●横浜で米穀通帳などを担保に取る高利貸し出現との報告に、県経済保安課が調査開始。

13(土)●大本営海軍部、連合艦隊司令長官・山本五十六のもと、ハワイ奇襲作戦の図上演習を実施。

14(日)●東京・小平に転廃業者の職業訓練施設、国民勤労訓練所が開設。

15(月)●農林省、全管理米の政府買い上げをはかる米穀国家管理実施要綱を通牒。

16(火)●山陽本線網干駅で列車衝突。六五人死亡。

17(水)●初の女性弁護士・久米愛、殺人公判で弁論。

18(木)●音楽挺身隊(隊長・山田耕筰)、結成。
●華中派遣軍、長沙作戦を開始(27日長沙占領)。

19(金)●映画一〇社を松竹・東宝・大映の三社に統合。

20(土)●大日本航空会社、乗客を優先するため一五人のエアガールを全廃。

21(日)●漢口で世界初の日食のカラー映画撮影に成功。

22(月)●情報局、既刊音楽雑誌を廃刊(一二月号から「音楽之友」など六誌を創刊)。

23(火)●警視庁、犬や猫の肉をハムなどに加工し、料理店に売っていたグループ八十余人を検挙。

24(水)●英仏ソなど一五ヵ国、大西洋憲章参加を表明。

25(木)●国民学校の教師ら三五〇〇人に防火講習会。

26(金)●閣議、二毛作奨励など緊急食糧対策を決定。

27(土)●陸軍、グアム島攻略の南海支隊動員を命令。

28(日)●東京滑空機研究所が初の水上滑空機試験実施。

29(月)●山本五十六連合艦隊司令長官、永野修身軍令部総長に長期戦は困難と「避戦」を上申。

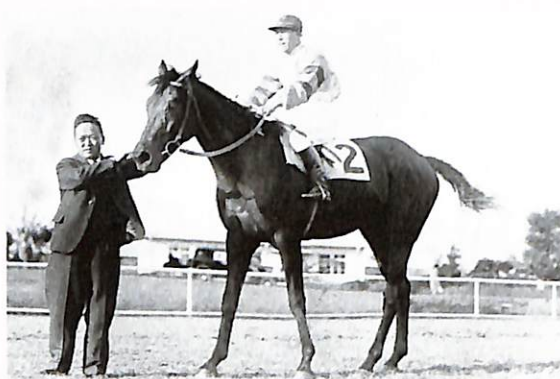
30(火)●朝夕の省線は三〇分で一〇万人輸送と鉄道省。

◀**人気の百面相(10月)** 東京・上野の鈴本演芸場で、桂一奴が演じる百面相は、話題の人物に扮するもので、目新しさと風刺の辛辣さが人気を呼んだ。写真左から喜劇俳優・高勢実乗、近衛文麿、ヒトラー、東条英機。

藤本四八／JPS

朝日新聞社

▼**三笠宮結婚(10月22日)** 高木正得氏の次女・百合子さん(19)との結婚の礼が、賢所大前でとり行われ、秩父宮妃、高松宮夫妻ら皇族が参列。早朝から、東条首相ら全閣僚が慶賀の記帳に訪れた。

◀**セントライト、初の三冠馬(10月26日)** 横浜農林賞典、東京優駿を制していたセントライトは、京都農林賞典に快勝して三冠を達成した。この年国営競馬は、戦前最高の売り上げ3億円、入場者280万人を数えた。名馬は戦前最後のブームに沸く中で誕生した。

毎日新聞社

▲**女子生徒の夜間警備(10月26日)** 大阪の扇町高女では、木刀にもんぺ、提灯を掲げて校内の見まわりを開始した。この年、女子生徒の軍事教練が始まり、高等女学校の軍国主義化が活発になった。

毎日新聞社

◀**開戦派の東条内閣成立(10月18日)** 東条首相は陸相と内務相を兼任。11月5日の御前会議で対米英開戦準備を決め、太平洋戦争に突入していく内閣となった。

藤本四八／JPS

▼**戦時下のアメフトリーグ戦(10月17日)** 後楽園球場で関東学生鎧球連盟の明大対日大戦が行われ、明大が32対0で圧勝、リーグ優勝したが、18年には中止された。

昭和16年10月

1(水)●商工省、家庭用ガスの使用量を制限。
●西日本で台風被害。死者・不明二二〇人。
●雑誌「受験旬報」が「蛍雪時代」に改題。

2(木)●「伊六一号」潜水艦、壱岐水道烏帽子島沖で特設砲艦と衝突し沈没、七〇人死亡。

3(金)●看護婦の最低年齢を一歳引き下げ一七歳に。

4(土)●逓信省、外国郵便物の開封検閲を始める。

5(日)●大本営、連合艦隊に作戦準備を命令。

6(月)●東京交通局、二㌔以内の定期券の発売を中止。

7(火)●山口県厚東川ダム工事現場で、朝鮮人労働者三三〇人が待遇改善など要求し一斉罷業。

8(水)●厚生省、男性を制限し女性を使用すべき職種(販売店員・出改札係・車掌など)指定。

9(木)●日英交換引揚げ第一船「扶桑丸」、シンガポールから五五三人乗せ台湾・基隆に入港。

10(金)●農林省、芋類の増産と桑園整理を通牒。

11(土)●住宅営団、東京初の住宅分譲を三鷹で開始。

12(日)●近衛首相、私邸で陸・海相らと和戦を協議。

13(月)●東京府米穀商組合、ガソリン節約のためトラックに代えて市電での米輸送を始める。

14(火)●女性踏切番・井上くら三五年無事故で功績賞。

15(水)●満鉄調査部の尾崎秀実、スパイ容疑で検挙(18日リヒアルト・ゾルゲ逮捕。ゾルゲ事件)。

16(木)●第三次近衛内閣総辞職。対米で閣内不一致。
●ソ連政府、モスクワ放棄、クイビシェフへ。

17(金)●中等学校などの体育に滑空訓練が導入される。

18(土)●東条英機内閣、成立。首相が陸・内相兼務。

19(日)●永野軍令部総長、ハワイ奇襲作戦に同意。

20(月)●日本食肉統制会社、営業開始。

21(火)●文部省、「新卒者を早急に銃後社会に」と普通・専門学校生の進学制限を通牒。

22(水)●三笠宮崇仁親王、高木百合子さんと結婚。

23(木)●東京中央市場、仲買人廃止など機構改革実施。

24(金)●ソ連、中国国民政府への援助停止を発表。

25(土)●前農相・石黒忠篤、亡父・忠悳の遺志を継ぎ子爵相続を辞退。

26(日)●京都競馬場でセントライトが初の三冠馬。

27(月)●男二五歳・女二一歳までに結婚をと厚生省。

28(火)●閣議、鉄鋼など重要産業第一次指定を決定。

29(水)●岩波文庫、視力保護のための情報局の要請で九ポイント活字を採用。

30(木)●情報局、小冊子『時局防空必携』を発表。焼夷弾の威力と防火対策を強調。

31(金)●政府、臨時増税案を発表。酒税五割増など。

毎日新聞社

▲「東亜」の留学生集まる（11月29日）「日満華三国締盟成立一周年記念留学生交歓大会」が、東京・後楽園で催された。大会後、屋上で各国の小旗を振って記念撮影。

毎日新聞社

▲海軍機動部隊、択捉島単冠湾に集結（11月22日）真珠湾奇襲作戦に参加する33隻の艦船は、この日集結を終え、11月26日ひそかにハワイへ向けて東進、12月2日各艦船は開戦日の命を受け、8日真珠湾に殺到した。

三越提供

▲三越本店のライオン像、東郷神社へ（12月）一般家庭の日用品や寺院の鐘など、鉄や銅製品の回収が強化される中で、三越はシンボルのライオン像を東郷神社へ奉納。幸運にも溶解をまぬがれ、戦後、もとの場所へ戻された。

共同通信社

▶米、対日最後通牒を提示（11月26日）中国と仏領インドシナからの全面撤退を求める「ハル・ノート」をアメリカが提示。日本は翌日、4月以来の交渉を打ち切った。写真左から交渉にあたった野村大使、ハル国務長官、来栖大使。

▲祖国振興隊が木炭増産（11月）ガソリンの輸入が逼迫・途絶されたこの年、国内で自給できる有力な燃料として、木炭が見直され、増産が進められた。写真は炭俵をかついで山道を下る、宮崎県の木炭生産者が組織した祖国振興隊の隊員。

共同通信社

昭和16年11月

1（土）●文部省、大学などの半年繰り上げ卒業を決定。●「科学朝日」創刊。創刊号特集は「戦車」。
2（日）●米税関、日本向け郵便物の開封検閲を始める。
3（月）●華北方面軍司令官・岡村寧次、「焼くな、殺すな、犯すな」の三戒標語を訓示。
4（火）●閣議、行政事務簡素化の勅令案要綱を決定。
5（水）●御前会議、帝国国策遂行要領を決定。●大本営、連合艦隊に対米英蘭作戦準備を発令。●日本海汽船の「気比丸」、朝鮮・清津から敦賀への途上で触雷し沈没。死者・不明一六五人。
6（木）●大本営陸軍部、南方軍（総司令官・寺内寿一）と南海支隊の戦闘序列を下命。
7（金）●東京青果物商業組合設立。家庭用に八割配給。
8（土）●連合艦隊、武力発動予定を一二月八日と予令。
9（日）●京都の巨椋池の干拓完了。六三四㌶の水田に。
10（月）●真珠湾攻撃の潜航艇搭乗員らが任命される。
11（火）●米大統領、対独参戦を辞さずと声明。
12（水）●計量不正商品は三五㌫にのぼると東京市。
13（木）●正月用餅米の配給は前年の半分と新聞に。
14（金）●在米邦人引揚げ第一船「竜田丸」横浜帰着。
15（土）●丙種合格の「第二国民兵」も召集対象に。●大本営、南方軍に対し南方要域攻略命令発令。
16（日）●三五〇〇人参加し東京青年学校連合演習開催。
17（月）●日本放送協会、東条首相の施政方針演説の録音をラジオ放送。初の議会中継を実施。
18（火）●野村大使ら、ハル米国務長官に日本軍の南部仏印からの撤兵・米の資産凍結解除を提案。
19（水）●逓信省、集金人がまわる積立郵便貯金を創設。
20（木）●東京と千葉結ぶ東洋一の小松川橋が竣工。
21（金）●文部省、中等学校入試に学区制導入と発表。
22（土）●国民勤労報国協力令公布。四〇歳未満の男子などに年三〇日以内の勤労奉仕を義務化。
23（日）●警視庁、家庭用鮮魚の登録配給制を実施。
24（月）●在外邦人の引揚げは一万人突破と外務省。
25（火）●東京駅に初めて「自動改札器」が設置される。
26（水）●ハル米国務長官、ハル・ノートを野村大使に手交。中国と仏印からの日本軍全面撤退要求。●機動部隊、択捉島単冠湾を出港しハワイへ。
27（木）●大本営政府連絡会議、ハル・ノートを米の最後通牒と結論。宣戦詔書の審議を行う。●米海軍、太平洋艦隊に「戦争警告」を発する。
28（金）●第一期満州開拓計画で一〇万戸入植と新聞に。
29（土）●御前重臣会議、政府の米英開戦決意に同意。
30（日）●羊毛自給のため御殿場に国立種羊場開場。

共同通信社

◀決戦下の婦人標準服発表（12月19日）男性の国民服を制定した厚生省は、15年9月、服装の合理化と生活の刷新をねらい、女性の国民服制定の準備を始めた。この日、厚生省が4つの標準型を発表したが、服地不足もあって普及しなかった。

▼大詔奉戴国民大会（12月13日）真珠湾攻撃やマレー沖海戦など日本軍の快進撃が続く中、日比谷公園で開催され、学生・市民など10万人が参加。東条首相は、米英に宣戦を布告し、大きな戦果を上げたと発表、長期戦の覚悟を呼びかけた。写真は大会参加者の表情。

藤本 四八／JPS

◀マレー沖海戦（12月10日）イギリスの戦艦「プリンス・オブ・ウェールズ」（下）と、戦艦「レパルス」（上）に海軍航空隊が空爆し、2隻を撃沈させた。英軍に打撃を与え、航空機が戦艦と戦えることを示す海戦となった。

◀香港占領（12月25日）12月8日、英軍のアジアにおける重要拠点のひとつ、香港への攻撃を開始した陸・海軍は、13日に九竜地区を占領、14日から航空部隊も参加して香港島の総攻撃を開始。英軍は、この日無条件降伏した。

◀戦艦「大和」竣工（12月16日）開発に着手以来7年、呉海軍工廠で竣工。排水量6万9100トン、最高速力は27ノット、46センチ砲9門を搭載する世界最大の戦艦。写真は10月20日、高知県の宿毛沖を全力予行運転中の「大和」。

毎日新聞社

共同通信社

昭和16年12月

1（月）●御前会議、米・英・蘭との開戦を決定。
2（火）●山本連合艦隊司令長官、機動部隊に「ニイタカヤマノボレ一二〇八」と開戦日を発信。
3（水）●新響、「フィガロの結婚」を演奏会形式で上演。
4（木）●第二五軍先遣兵団、マレーめざし海南島出港。
5（金）●内務省が映画俳優の芸名廃止。大河内伝次郎は大辺男、阪東妻三郎は田村伝吉にと新聞に。
6（土）●東郷外相、対米最終覚書を野村大使に発電。
7（日）●米映画商社八社を閉鎖（8日上映中止）。●独、モスクワ総攻撃失敗、東部戦線休止。
8（月）●日本軍、真珠湾を攻撃（太平洋戦争開始）。●シンガポール・香港・グアムを攻撃。●天候が機密扱いになり天気予報の報道禁止。●北京原人の骨が北京の共和医科大の金庫から紛失していることが判明（以後、行方不明）。
9（火）●開戦で共産主義者など六百余人を一斉検挙。
10（水）●海軍、マレー沖海戦で英戦艦「プリンス・オブ・ウェールズ」を撃沈。ルソン島上陸。
11（木）●独・伊、米に対し宣戦を布告。
12（金）●閣議、対米英中戦を「大東亜戦争」と呼称。
13（土）●陸軍、九竜半島を占領。香港総督は降伏拒否。
14（日）●日本放送協会、高村光太郎ら詩人二五人に委嘱した「愛国詩」の放送を開始。
15（月）●陸軍省と参謀本部、市ケ谷の新庁舎に移転。
16（火）●呉海軍工廠で戦艦「大和」竣工。
17（水）●米太平洋艦隊司令長官にニミッツが就任。
18（木）●消防・救急などをのぞき自動車は代用燃料に。
19（金）●言論・出版・集会・結社等臨時取締法公布。出版物の取締り強化、集会の許可制など。
20（土）●米司法省、在米日本人一四六〇人を検挙。
21（日）●日タイ同盟条約、調印。
22（月）●米英戦争指導会議（アルカディア会議）開催。
23（火）●全国の高等女学校で六〇万人が「戦勝祈願」。
24（水）●次官会議、「極東」を「東亜」と変更（15日）に続き「土民」の用語使用を禁止と発表。
25（木）●日本軍、香港を占領。
26（金）●東京府、提灯行列など祝賀行事自粛を通牒。
27（土）●米極東軍司令部、マニラの非武装都市を宣言（17年1月2日日本軍占領）。
28（日）●神奈川県警、除夜の鐘の禁止を指令。●李香蘭・佐野周二主演「蘇州の夜」封切。
29（月）●大蔵省、食塩の通帳配給制を決定。
30（火）●ガンジー、国民会議派の対日参戦宣言に抗議。
31（水）●東鉄、例年実施の初詣で電車の終夜運転中止。

俄楽多市

流行語
海軍のモットーは英国から

「月月火水木金金」。昭和一五年一一月、ポリドールから同じ題のレコードが発売され、太平洋戦争の開始とともに、海軍魂を示すものとして流行。作詞は海軍中佐の高橋俊策、作曲は海軍軍楽隊出身の江口夜詩で、海軍省が同社に依頼して作らせたという。ただし、この言葉のもとはイギリスの作家がイギリス海軍をからかって表現したのが始まりと言われている。

「目の合図」。この頃になると着るもの、食べるものすべてが不足し始め、八百屋、魚屋などでの長い行列が当たり前になった。ところが知り合いや町の有力者が来ると店の主人が目で合図して、行列を尻目に売ってやることもおおっぴらになり、「目の合図」という言葉が、主婦たちの憎悪のシンボルとなった。警視庁には「目の合図で売るのなら、なんのための行列か」という投書が殺到、警視庁は小売業者に目の合図を厳禁するという警告を発した。

「第五列」。本来はドイツが、オランダやフランスなどの国内に設置したスパイ網をさすが、それが転じて上役に同僚の悪口を言ったり隣近所の噂をばらまく人をこう呼ぶようになった。

CM100年

新聞CM「戦ひながら建設だ！
――メンソレータム」（近江兄弟社）

▶太平洋戦争を控えてCMも戦時色を反映。

住
"真田幸村"も防空に一役 秘密の抜け穴を防空壕に

〔大阪発〕商都の防空対策を急いでいる府警防課では、市の内外にある太閤さん時代の抜け穴に目をつけ、防空壕として再生させる案を立てている。現在、郷土史家の間で知られている抜け穴は、智将・真田幸村が作ったという東成区の産湯稲荷の全長五十余間（約九〇メートル）に達する"真田の抜け穴"と東区三光神社前の抜け穴、さらに夕陽丘の人家の床下で発見された穴ぐらなどだが、本当に抜け穴を調べた人がいないので、同課では大阪史談会などに呼びかけて真実かどうかや、ほかに秘密の抜け穴がないかなどを、調べることになった。もし抜け穴が確認されれば、数百年の風雪に耐えた理想の防空壕になると期待されている。
（「大阪毎日新聞」三月二五日）

共同通信社

▲ガソリンを節約するため、米の輸送に市電を利用。

食
とかげの丸焼きで食糧不足も安心？

食糧確保の一策として、食糧報国連盟が一五年秋から全国で実施してきた「備荒動植物」の調査がまとまり、調理法によって食べられる植物は一・〇〇〇種、動物は・〇〇種におよぶことがわかった。

具体的な調理法も全国から寄せられたが、その中で動物の調理法の一例をあげると、「とかげ」は頭を取り、焼いて食用。「赤まむし」は皮、臓腑をのぞいて照り焼きか塩焼き。「げんごろう」は幼虫の羽根をのぞいて、焼いて食べる。成虫の身はてんぷらに。
（「朝日新聞」六月七日）

受験
校庭の草取りで合否を決める!?

学科試験や口頭試問は取りやめて、受験生徒に校庭の草取りをやらせ、その動作から性格を観察して合否を決めるという珍しい入試が大阪に現れた。この学校は、今年から大阪府立に昇格した佐野高等女学校で、この日の朝、考査を開始するにあたり、突然、番号札をつけた一五二人の受験生徒を三班に分けて、校庭の草取りをやらせた。この"試験"には校長はじめ職員も加わり、一時間にわたって草取りをしながら生徒の動作を観察、先生たちの手もとには、生徒の番号と性格メモが残された。
（「大阪朝日新聞」三月二二日）

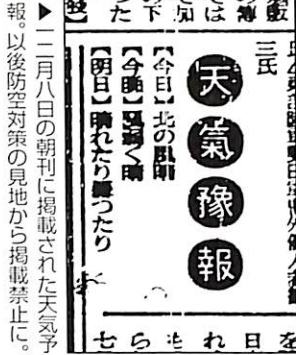
番町幼稚園提供

▲晩春の1日、千葉の海岸へ潮干狩りに来た幼稚園児たち。

▲「教室も戦場」と言われ始めたこの年1月、林田正作「ほがらか王君」の連載がスタート。掲載誌は、「少年倶楽部」。

三面記事
"生めよ殖やせよ"の原点

昭和一六年五月、いわゆる"生めよ殖やせよ"の理論的根拠として、厚生省体力局から「母性指針」が発表された。

それには、「太平洋の彼方には一億三〇〇〇万の人口と世界無比の資源を持つアメリカがあり、日本海を隔てては一億七〇〇〇万の人口と世界第一の人口増殖率を示すソ連があり、黄海を隔てては四億余りの支那（中国）があり、さらにその西には、今は眠れる三億五〇〇〇万の印度がある。その真っただ中にあるわが国が東亜共栄圏を確保するには、まずわが国における人口増加を企図しなければならない。わが国の人口は七〇〇〇万、少なくとも二〇年後には一億に達することが要求される。蓋し婦人の最も肝要な使命は母として、次代日本を背負う国民を生産、育成することにある」と記され、続けてこの指針は第一次大戦では、男子の不在、婦人の激労による流産・早産の増加で人口が激減したことなどを、"生めよ殖やせよ"の根拠としてあげている。
（『静岡県産婦人科医史』）

▶一二月八日の朝刊に掲載された天気予報。以後防空対策の見地から掲載禁止に。

はやり歌

▲読売新聞社が選定した「国民総意」の歌。霧島昇、松原操、李香蘭の3人が歌った。

そうだその意気
作詞 西条八十
作曲 古賀政男

なんにも言えず　靖国の
宮のきざはし　ひれ伏せば
熱い涙が　こみ上げる
そうだ感謝の　その気持
揃う　揃う気持が　国護る
雁鳴きわたる　月の空
今夜いまごろ　戦地では
弾丸を浴びてる　ともがある
そうだ済まない　その気持
揃う　揃う気持が　国護る
戦に勝つにゃ　お互いが
持場職場に　いのちがけ
こんな苦労じゃ　まだたりぬ
そうだその意気　その気持
揃う　揃う気持が　国護る

めんこい仔馬
作詞 サトウハチロー
作曲 仁木他喜雄

ぬれた仔馬の　たて髪を
撫でりゃ両手に　朝の露
呼べば答えて
めんこいぞ　オーラ
駆けて行こかよ　丘の道
ハイド　ハイドウ　丘の道
藁の上から　育ててよ
いまじゃ毛並も　光ってる
お腹こわすな
風邪引くな　オーラ
げんきに高く　ないてみろ
ハイド　ハイドウ　ないてみろ
紅い着物より　大好きな
仔馬にお話し　してやろか
遠い戦地で　お仲間が　オーラ
手柄をたてた　お話しを
ハイド　ハイドウ　お話しを

▲二葉あき子が歌って、大ヒットした。（日本コロムビア）

文化
マイクを使うのは"大和魂"違反

この頃、音楽は目のかたきにされた。中でも敵性器具としていち早く指定されたのは、マイクロホンである。自分の声で歌え、機械に頼るなんて卑怯千万というのであった。二番手はハワイアンのスチールギター。女々しく感傷的で国民精神振興上、益がない。三番目はテナーサックス、あの音が退廃的でけしからんとされた。こういう奇談愚策の類を集めると、ゆうに一冊の本が書けるほどの量になる。
（中川三郎『踊らんかな！ 人生』）

▲浅草寺六地蔵に奉納された、女断ち祈願の絵馬。

事件
あの阿部定が東京拘置所を出所

昭和一一年五月、二・二六事件直後の世間を騒がせた阿部定（三七）は刑期満ちて、一七日朝六時、雨の中を実姉に出迎えられ、東京拘置所を出所、ひとまず両全会（婦人保護施設）に落ち着いた。

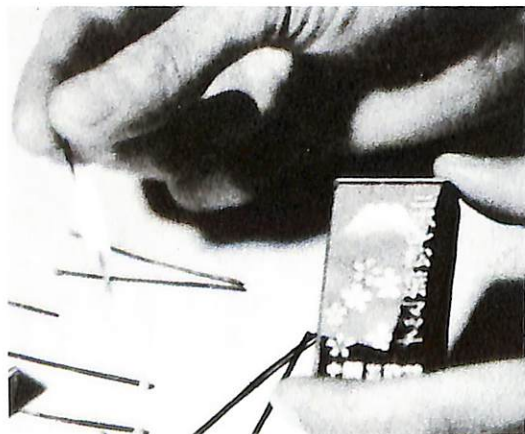
定は昭和一一年一二月、懲役六年の刑を受けて下獄、栃木刑務支所に服役、封筒張りなどをするうち、昨年、恩赦に浴し残る刑期の二分の一を短縮され、一六日に刑期満了。当局ではその数日前、定を夜ひそかに東京拘置所に送っていたもの。今後は両全会が相談にのり、再びあのような過ちのないよう万全をつくすことになった。
（「東京日日新聞」五月一八日）

社会
弁慶も忠臣蔵もある日本の珍名兄弟

ひっきりなしに徴兵が行われるようになったことで、それまでミスの多かった役場の戸籍が完璧なものになった。その結果、意外な名前の兄弟がたくさんいることもわかった（上が兄、下が弟）。

北海道＝森田豪傑、弁慶。岩手＝吉田電信、電話。神奈川＝八橋↓（すすむ）、↑（もどる）。愛知＝岩橋愛知、尾張。長崎＝月川東郷、乃木。熊本＝大石良雄、主税。
（「実話雑誌」一月号）

この年の初もの
電子望遠鏡が大阪電気科学館に

●開墾屋　「お宅の空き地を開墾してあげます」という商売で、東京に登場。日当一～三円。
●消息屋　「出征兵士の消息を軍に聞いてあげます」というインチキ商法。春頃から東京、大阪、博多などに出没。

▲マッチの軸木は米国産の泥柳を原料としていたが、手に入らないため松の葉使用のものが考案された。 朝日新聞社

世界の動き

ヒトラー、「バルバロッサ作戦」発令 ドイツ軍300万がソビエトに電撃的奇襲!

▲事実上の宣戦布告が行われる半時間前、ドイツ軍はソ連国境を越えて進撃を開始。対ソ攻撃には、ルーマニア、フィンランド、ハンガリーなども加わった。 bpK/デジタルハウス

一九四一年六月二二日、ナチス・ドイツ総統ヒトラーはソ連侵攻を命じ、三〇〇万人のドイツ軍がソ連領内になだれこんだ。開戦当初、破竹の進撃を続けたドイツ軍だが、「大祖国戦争」を叫ぶスターリンのもとソ連軍は反撃を開始。四年におよぶ独ソ戦の幕が切って落とされた。

連戦連勝のドイツ軍が五カ月でモスクワに迫る

「見ろ、クレムリンだ!」

モスクワ郊外のヒムカに突入したドイツ軍兵士は、対空砲火の明かりの中にクレムリンの尖塔をかいま見た。一九四一年(昭和一六年)一二月二日、モスクワの手前三〇キロに達したドイツ軍の前に、ソ連の運命は風前の灯に見えた。しかし、ドイツ軍はこの日を最後に、二度とクレムリンを見ることはなかったのだ。

この年の六月二二日、ナチス・ドイツ総統のヒトラー(五二)はすでに一五年前から著書『我が闘争』で明言していたロシア侵略を実行に移す。奇しくも一二九年前ナポレオンがロシアに攻め入ったのと同じ日に、史上最大の陸上作戦「バルバロッサ作戦」が開始されたのである。

二二日午前三時、北はバルト海から南はカルパチア山脈まで一五〇〇キロにおよぶ戦線から、三〇〇万人のドイツ軍が、突如としてソ連領内になだれこんだ。三五八〇台の戦車が大地を揺るがし、二七四〇機の航空機が空をおおう。一九三九年に、わずか六二日でフランスを制圧した「電撃戦」の再演である。

ナチスの宣伝相ゲッベルス(四三)によって宣戦布告文が国民に伝えられたのは午前五時三〇分。三九年八月に結ばれた、独ソ不可侵条約を破棄しての奇襲攻撃だった。そのうえ、当時スターリンの粛清で高級将校(大佐以上)の六五パーセントを失っていたソ連軍は、雪崩を打って敗走を始めた。夜明けまでに、ドイツ軍の戦車部隊はソ連領内八〇キロまで侵攻し、正午にソ連外相モロトフが「国民よ武器をとれ!」と呼びかけた時には、すでにソ連空軍は一二〇〇機を失い壊滅していた。

圧倒的な制空権のもとにドイツ軍の進撃は続く。参謀総長ハルダー大将は、七月三日の日誌に「ドニエプル川以西のソ連軍殲滅作戦が成就した」と記し、七月四日にはヒトラーが「六週間でソ連を制圧する」と豪語している。ドイツ軍は七月九日にはミンスク、一五日にはスモレンスクで勝利を重ね、モスクワまで八〇〇キロの地点まで迫った。

しかしヒトラーは後に「戦史の謎」とも言われる行動をとる。軍の反対を押し切ってウクライナ地方制圧をモスクワ攻撃に優先させたのだ。その結果、ドイツ軍は九月一九日にウクライナ共和国の首都・キエフを陥落させ、捕虜六六万五〇〇〇人という大戦果をあげる。九月末までのソ連軍の死者は五〇万人、捕虜一〇〇万人、対するドイツ軍は死傷者三〇万

◀「ロシア人は劣等であり、その軍隊は指導者を欠いている」。ヒトラーは、ソ連の軍事力を完全にみくびっていた。

◀放送、新聞、映画、演劇などを統制したゲッベルス。

◀八月、ハルダーはソ連を過小評価していたことを悟る。

▲7月3日、スターリンは「最後の血の一滴まで闘う」と演説。

▶モスクワ防衛司令官をつとめたジューコフ(右)。

外から見たNIPPON

ミャンマー建国の父、アウンサンが見た日本軍人の「差別」

——佐伯 修

「エイコサマ エ
ワタクシワ トオイクニカラ ニッポン
エ マイリマシタ アナタネ(ママ) コトガ ワ
スレラレマセン ドウカ オマチクダサイ
オモタモンジ」

(田辺寿夫訳編『アウンサン将軍と三十人の志士』より)

昭和一六年四月、日本の支援下に祖国独立運動を進めていた二七人のビルマ(現・ミャンマー)青年たちは、中国・海南島での本格的な軍事訓練を前に、桜が満開の箱根で、つかの間の安らぎにひたっていた。その中には、後に同国の「建国の父」と称される二六歳のアウンサン(オンサン)もいた。

この時、彼は宿舎の手伝いの女性、英子さんに心ひかれ、右のような日本語の「ラブレター」をしたためたが、シャイな彼は、結局それをポケットにしまったまま、英子さんには渡さずに終わったという。「三十人の志士」と呼ばれる彼らの一人、ボ・ミンガウンは、著書の中でそんなエピソードを紹介している。「オモタモンジ(面田紋次)」はアウンサンの日本名である。

彼ら「三十人の志士」たちは、今日のパキスタン、インド、バングラデシュを含む、広大な英国の植民地の東端で、苛酷な支配にあえいでいたビルマを脱出、当初は中国共産党の支援下に独立運動を行うつもりだったと言われる。が、正反対の立場の日本の方が先に、彼らに手をさしのべた。

そんな思わぬ展開にはなったが、この年の一二月、彼らは「ビルマ独立義勇軍」を結成、翌昭和一七年六月、日本軍とともにビルマ全土の英軍を駆逐する。日本は独立を約束し、バモオが首相、アウンサンは軍司令官となったのだが……。

日本軍の支援を受けはしたが、アウンサンは、日本人を醒めた目で見ていた。彼は「独立義勇軍」のために力をつくした鈴木敬司大佐(ビルマ名ボ・モージョ)が、朝鮮人や女性に差別的な態度をとるのを見逃さなかったし、日本人が天皇を神格化してあがめる姿にも、否定的感想を持っていた。

そして昭和二〇年三月、アウンサンたちは、ビルマ人に対し支配者的な態度をとり続ける日本軍に叛旗をひるがえし、戦後の完全(再)独立を勝ち取るが、アウンサン自身は、昭和二二年七月、兇弾に倒れた。

今日のミャンマー軍事政権を築いたネ・ウィンも「三十人の志士」の一人なら、対する民主化運動のリーダー、アウンサンスーチーはアウンサンの娘である。この取り合わせに、日本とビルマの宿縁が見える。

▲右端がアウンサン将軍、手前がスーチー。 共同通信社

人と、開戦当初はドイツ側の一方的な勝利だったが……。

ナポレオンの二の舞い 潰走するナチス・ドイツ

一〇月二日、ヒトラーはようやくモスクワ攻撃を開始した。しかし秋の長雨でロシアの大地は泥海と化し、ドイツ軍はぬかるみの中で身動きがとれなくなる。

さらに、寒波の訪れが早く、一〇月上旬には各地で降雪が記録され、まもなく気温は氷点下五〇度にもなった。ナポレオンを苦しめた「冬将軍」の到来である。

秋までに決着をつける予定だったドイツ軍は、冬用の装備もないままに厳寒の大地にクギづけとなり、この冬、凍傷により四八四〇人もの兵士を失うこととなる。

この間、スターリン(六二)を議長とする国家防衛会議はシベリア方面から兵力を増強し、「大祖国戦争」の掛け声のもとで軍需工場では昼夜を徹して兵器の増産が続けられた。そして一二月五日、一九三九年にノモンハンで日本軍を壊滅させたジューコフ上級大将(四五)率いる六〇万人のソ連軍の反攻が始まった。

「ヒトラーの誤算は、ソ連の潜在的軍事力やぬかるみに強い新型戦車T34などを開発した軍事技術を過小評価していたこと。秋までに勝利するどころか、補給もままならないほど広大な戦域で、ドイツ軍は長期戦を強いられることになってしまったのです」(日本大学講師・三野正洋氏)

寒さと疲労のきわみに達していたドイツ軍は大混乱におちいり、戦線を二五〇キロも押し戻される。一二月八日、この日すでに日本軍は真珠湾攻撃を決行し太平洋戦争に突入していたが、ヒトラーはついにモスクワ攻撃続行を断念し東部戦線の休止を決め、夏以来続いたドイツ軍の進撃は完全にストップしたのだった。

ヒトラーは翌年夏に巻き返しをはかるが、スターリングラードで激しい殲滅戦のすえ、九万一〇〇〇人の捕虜と一六万人の屍を残して撤退、敗北への道を転がり落ち始めたのである。

A・ヒトラー(1889~1945) ドイツの政治家。一九二一年ナチス党党首。三四年総統に就任し、四五年ベルリン陥落直前に自殺。

P・J・ゲッベルス(1897~1945) ドイツの政治家。一九二六年ベルリン・ナチス党支部長。その後宣伝相に就任し、四五年自殺。

I・V・スターリン(1879~1953) ソ連の政治家。一九一七年ロシア一〇月革命に参加。レーニンの死後、独裁的に全権力を握る。

G・K・ジューコフ(1896~1974) ソ連軍人。一九四三年元帥。四四年ドイツ軍を撃退し、ベルリンに入城。五五年国防相。

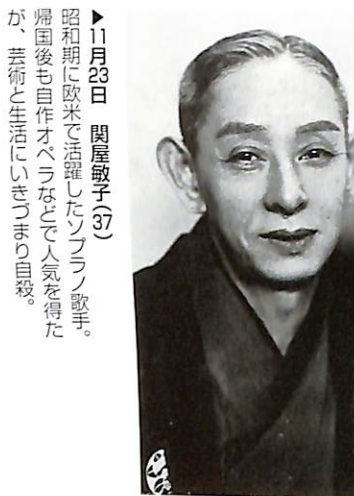
ユニフォト・プレス

▶独ソ戦における勝敗の分かれ目となったのは、スターリングラードをめぐる攻防戦だった。

往きて還らぬ

▲11月6日 モーリス・ルブラン(77)
フランスの小説家。会社づとめから文学に転じ、"怪盗ルパン"が主人公の探偵小説で世界的な人気作家となった。

▲8月22日 長谷川時雨(61)
明治・大正期の女流劇作家の第一人者。大正12年には雑誌「女人芸術」創刊。『近代美人伝』、戯曲『花王丸』など。

▲4月3日 太刀山峰右衛門(63)
元横綱。怪力が評判で入門し、板垣退助に太刀山と命名された。優勝11回、得意技の突きは"鉄砲"と言われた。

▶11月23日 関屋敏子(37)
昭和期に欧米で活躍したソプラノ歌手。帰国後も自作オペラなどで人気を得たが、芸術と生活にいきづまり自殺。

▲5月2日 エリアナ・パヴロバ(42)
日本に帰化(霧島エリ子)したロシア人舞踊家。昭和3年鎌倉にバレエ・スクールを創設、多くの舞踊家を育てた。

▲1月4日 アンリ・ベルグソン(81)
フランスの哲学者。直観主義的唯心論で世界的に影響を与えた。主著に『物質と記憶』『創造的進化』など。

◀8月7日 R・タゴール(80)
インドの詩人で、宗教的思想家。1913年詩集『ギーターンジャリ』でノーベル文学賞受賞(右から二人目)。

▲3月1日 森矗昶(56)
実業家。昭和電工社長で森財閥の創設者。アルミニウムの国産化に成功するなど、重化学工業の発展に貢献した。

▲12月29日 南方熊楠(74)
博物学者、民俗学者。菌類の研究で世界的に知られ、70種の新菌種を発見。数々の奇行でも有名だった。

▲9月10日 桐生悠々(68)
元信濃毎日新聞主筆。乃木将軍の殉死を批判したり、「関東防空大演習を嗤ふ」など徹底した軍部批判を貫いた。

▲6月2日 ルー・ゲーリッグ(37)
アメリカのプロ野球選手。ヤンキースの強打者で生涯打率3割4分1厘。昭和9年には、ベーブ・ルースらと来日。

▲3月28日 ヴァージニア・ウルフ(59)
"意識の流れ"を追求した作品で知られるイギリスの小説家で、代表作に『ダロウェイ夫人』など。戦時中入水自殺。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第20号 6月24日(火)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1942［昭和17年］

●特集
空母四隻を失う大惨敗！ ミッドウェー海戦と"大本営発表"／強制連行八〇万人！ 朝鮮人・中国人が見た「人間地獄」／一億人が観た「ハワイ・マレー沖海戦」の特撮／ユダヤ人の"組織的殺害"を決めたナチス「ヴァンゼー会議」の戦慄

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…日本軍、マニラに無血入城（1月2日）／英軍、古都リューベックを爆撃（3月28日）／バターン半島の米比軍、降伏（4月9日）／B25、東京初空襲（4月18日）／米軍、ガダルカナル島に上陸（8月7日）／独ソ、スターリングラードで攻防（9月13日）／代用品花盛り（10月）

●人物クローズアップ
"マレーの虎"山下奉文の実像

●決定的瞬間
V2ロケット、飛行実験に成功！

●美の出会い
"薄化粧"を要求された資生堂の広告

●女たちの肖像…山田五十鈴、新劇団結成／勝者・敗者…野口vs.西沢、二八回引き分けの熱投／証言・あの日この日…徳川夢声、伊藤整／20世紀博物館…パイロット筆記具資料館（神奈川）／「現場」を歩く…下関と関門トンネル／外から見たNIPPON…グルー米大使と日本初空襲

●ベストセラー…柳田國男『こども風土記』／スターと名場面…溝口健二監督「元禄忠臣蔵」後篇、小津安二郎監督「父ありき」／モノ語り'42…「陶製アイロン」「鶏足ぞうり」

ミニ事典
1941年のキーワード

大日本青少年団
それまでの青少年の団体、大日本連合青年団、帝国少年団協会などを統合、新体制の要請に応じ、学校と連携して青少年の生活を統制し、国防訓練などを行った。団員は小学三年生から二五歳まで。団長は文部大臣、地方団団長には地方長官（現在の知事）が就任、一月一六日、東京の日本青年館で結成式が行われた。

米穀配給通帳制
米・麦の配給統制を強化するため四月一日から東京・大阪・名古屋・京都・神戸・横浜の六大都市で実施。年齢別による個人当たり一日割当定量が、たとえば数え年で一一歳から六〇歳までは三三〇グラム、重労働者は男五七〇グラム、女四二〇グラムなどと決められ、それにしたがって各家庭ごとに配給所で支給された。

毎日新聞社
▲4月1日から米の配給。増配の日は笑顔だった。

肉なし日
農林省の指導で始まった肉を売らない日。毎月二回、八日と二八日は飲食店や料理店で肉料理禁止、これに二日と一八日を加えた四回、小売店などで肉を売らない日にした。この年の五月八日が初の肉なし日だった。しかし、肉屋にはほとんど肉がなく、買い占めで闇値も高騰、庶民には縁がなかった。

ベトミン
インドシナ共産党のホー・チ・ミンらを中心に五月一九日に結成された反日・反仏民族解放戦線組織。ベトナム独立同盟会の略。前年九月以降、日本軍は中国に対する援助物資輸送ルートの遮断と、南方作戦の戦略上の観点から仏印（仏領インドシナ）への侵略を進めたが、ベトミンは各地でゲリラ戦を展開、終戦前日の二〇年八月一四日からの全国一斉蜂起（八月革命）では、独立獲得の主勢力となった。

清郷工作
汪兆銘を首班とする中国の南京政府が、日本軍の協力のもとに支配権拡張と解放区撲滅をねらって、七月一日から華中で開始した作戦。設定した「清郷地区」を武力で占領した後、出入り口に検問所を設けて農民の移動を禁じた。翌昭和一七年四月には汪みずから、蘇州・無錫の両地区を視察するなど力を入れていたが、期待したほどの成果は得られず一八年以降は実施されなかった。

「国際写真情報」国際フォト
▲清郷工作で水路を行く日本兵。

渋柿主義・熟柿主義
独ソ開戦の場合に、日本がソ連に対してとるべき方針を表した言葉で、渋柿でもたたき落として食べる対ソ即時参戦論の渋柿主義か、柿が熟すのを待って拾う、状況によって好機を待つ熟柿主義かが争われた。七月二日、御前会議で「情勢の推移に伴う帝国国策要綱」が決まり、結局、熟柿主義が採用された。

関特演
関東軍特別演習の略。対ソ侵攻作戦を行うための関東軍などの動員のこと。七月二日、御前会議で「情勢の推移に伴う帝国国策要綱」が決定され、七日、中国東北における兵力増強が発令された。約七〇万人、軍馬一四万頭という大動員が秘密裡に行われた。しかし、ドイツ軍のソ連侵攻が停滞したため、八月九日、武力行使は中止となった。

ABCD包囲陣
日本を経済的軍事的に包囲しているとされたA（アメリカ）、B（イギリス）、C（中国）、D（オランダ）の四国のこと。アメリカは七月二五日の在米日本資産凍結、八月一日、石油の輸出を禁じた。イギリス・オランダもこれに続き、中国への援助を強化した。政府は、国民の敵がい心をあおり、対米英戦や東南アジアへの侵略を正当化するため、これらの措置をABCD包囲陣とし、その不当さをさかんに言いつのった。

みそぎ
「皇国民の錬成」のために、伝統的宗教儀式、水浴して心身を聖化するみそぎを援用して、大政翼賛会が普及をはかった修養。白鉢巻き、白衣、白袴、白足袋姿で、食事は毎日朝夕五勺（約八〇グラム）の玄米食に梅干しひとつ、清流に打たれて心身を鍛えるというもの。八月二日には神奈川県箱根の日本精神道場の修練会に作家の横光利一らが参加した。

朝日新聞社
▲8月2日、箱根の道場で行われた、みそぎ錬成の模様。

大西洋憲章
アメリカ大統領ルーズベルトとイギリス首相チャーチルが、カナダ東岸の艦船上で会談、八月一四日、両国の共通政策を確認して発表された共同宣言。連合国側の戦争に対する姿勢や、戦後の世界秩序など八項目を明らかにした。この主張は翌一九四二年一月一日の連合国共同宣言（二六ヵ国参加）に継承された。

重要産業団体令
重要産業の生産目標や価格の決定権を国家が握り、統制を徹底させるため、産業別に統制会を組織させる勅令。八月三〇日に公布。全国的産業には統制会、地方的産業には統制組合が組織され、強制加入とされた。一〇月に九事業にこれを適用、一七年一月から昭和一七年一月末までに、鉄鋼・石炭・セメントなどで相次ぎ統制会が設立された。

帝国国策遂行要領
大本営政府連絡会議で原案を作成、御前会議で対米英開戦を正式に決めた方策。七月二日の決定を改定した九月六日のものと、一一月五日決定の二つがある。前者は武力発動の準備とともに、日米交渉の進展も視野に入れていた。後者はこの年一〇月一八日の東条内閣の成立後更新、開戦時を一二月初頭と具体化、日米交渉もアメリカへの譲歩は含まず、期限を一二月一日とするなど、開戦を優先させる内容だった。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀1941 CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
大鷹淑子 尾崎秀樹 影山光洋 影山智洋 高村規 但馬一憲 平野美津子 藤本四八 松田正志 門奈次郎 山中恒 朝日新聞社 ARCHIVE・PHOTOS Culver・Pictures 共同通信社 勁草書房 CORBIS-BETTMANN 国際写真情報 国際フォト 国際報道工芸 JPS 四国新聞社 中日新聞社 デジタルハウス bildarchiv・preussischer・Kulturbesitz PPS 平凡社 Popperfoto 毎日新聞社 文殊社 ユニフォト・プレス WWP 松竹 宝塚歌劇団 東芝 東宝 三越 埼玉県平和資料館 瀬戸市歴史民俗資料館 日本近代文学館 番町幼稚園

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀 1941
●日本軍、真珠湾奇襲!
7月1日号
第1巻第19号 通巻19号
編集人 近藤達士 発行所 株式会社講談社 郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
定価560円

雑誌 23701-7/1 T1123701070567
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社